

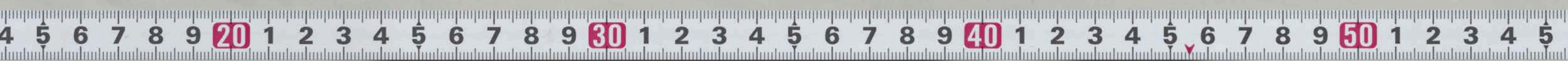
殺さしむかきしるる義雄いふ志を
固し宇都宮に服従し
○廊城一覽云義雄乃初名氏勝と名
乗し小田原小条家の分字あり
按し此説信あり義雄初名氏勝と
号せし頃上杉の麾下ありし時
辯するや如し氏勝を義雄と改めし
後小田原の麾下に属せし時ありし
之故ハ小条氏康乃婿に相模國玉繩
城主小条左衛門右史氏勝といふ人の
同名しるを以て憚り改めしとの
事あり

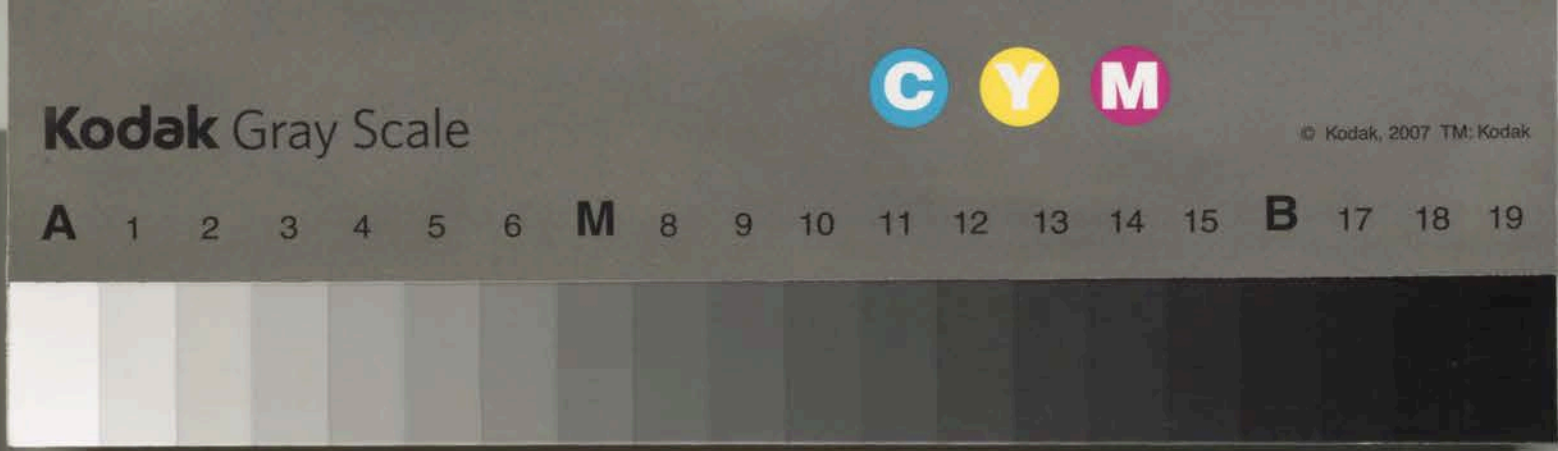
古戦録云宇都宮二郎左衛門廣綱天正
三年乙亥二月十五日那須家と合戦に相
隨ふ輩ハ壬生上総久塩原宮内少輔龜
谷伊豫守豊田若狭守神山隼人正
唐沼右衛門尉以上二千三百余騎あり
按し宇都宮ハ隣堺の大家ありり由京

押原推移録上ノ卷
廿二

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1



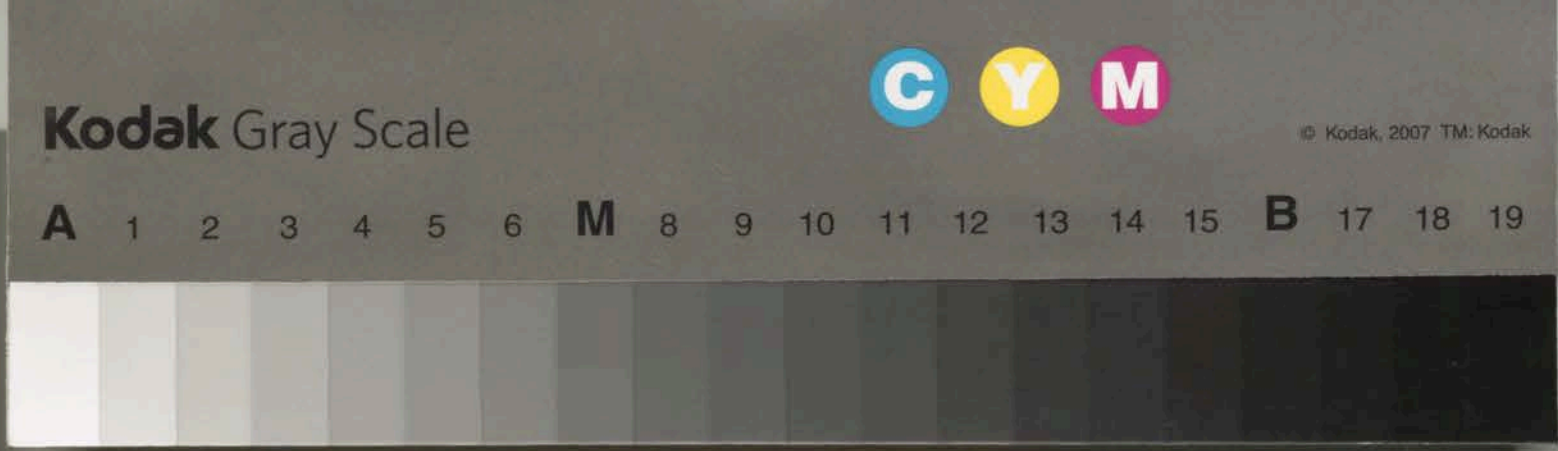


生家とのつゝ催使に随て出勢せ
 るも又鹿沼右衛門乃名爰不始
 てるえり至則下り考を出せる猪倉
 の城主なり乃延徳年中の鹿沼左門
 太夫教清不混はつゝ
 又天正八年庚辰宇都宮下野守廣
 綱死去十六嫡子權十郎國綱後下野守
正四位持
後位行
義昭孫家督つゝと雖も幼稚ある故に
 佐竹家の後見を以て國を守る故に
 豊公小田原攻伐の頃ハ軍代を以て勤
 免之
 同書云天正六年戊寅七月小糸氏政野
 州皆川の城を責む壬生小山佐野榎本
 乃面皆上杉の
摩之謀を合せて後結を以て
 小糸戦利ありて小田多一帰陣は云
 又云天正六年寅三月越後謙信病死
 以遺跡の事は依り養息上杉三郎景
 席實ハ小糸氏康七男初名七郎氏秀武田勝頼の養謙信
子とありて武田三郎と号せり人々
 押原権移録上ノ卷
 廿三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1



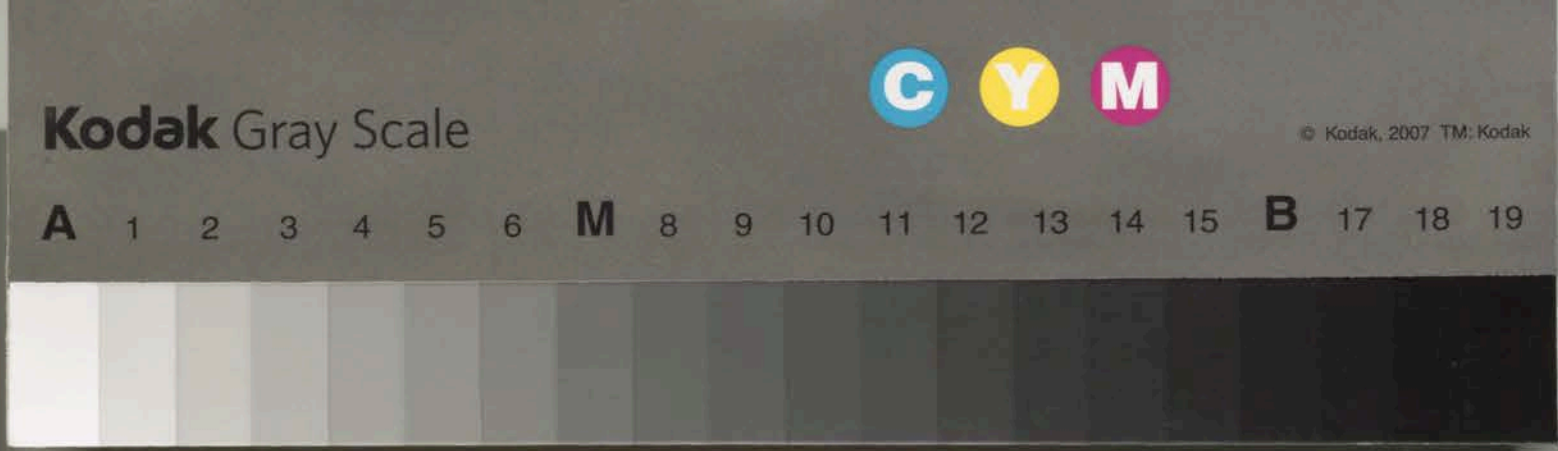


の甥長尾喜平二景勝と遺詔争論の子
 輩りて家臣左右子別進て同士の討の戦
 あま景勝遂に戦敗て戦死に景勝令
 輝席の遺跡を相續に然れどもか
 内乱に依りて人氣定まらぬ景勝越山して
 関東に兵を出す事能はぬ殊に當時家
 盛んある織田武田小田原乃こゝ家を敵
 子受て敵國一軍を出さぬハ危き配立
 するに依りて自國を守りて根を固せん

との軍配を憚りて動あはれを以
 於て皆川壬生宇都宮を初免関左乃
 列候上杉の麾下より一輩を漸く
 離れぬを以て一國一郡を授て自巳の威
 をたぐきまゝにすまざるある一戦
 國乃人氣斯あるへき事之
 按て天正年中上杉輝席没し武田
 勝頼も信長乃為に滅亡し関東管
 領の職を補せられし瀧川左近一益

押原推移録上ノ卷
 廿三





天正十年六月信長明智光秀
 為子弒せし事一凶變也聞て取物
 と至河一以上京は是子於て北条氏政
 敵する者あり天正十年の頃小玉りて
 八關東一圓に小田原の麾下子属は
 壬生義雄も此に在り小田原の麾下
 子属せし事一
 古戦録云小条氏政茲城用意の手始と
 し下野國の先方壬生上総及義雄
 子命し十二月月中旬山中の城乃繩張
 を改免郭をす一城を垣らしめ修營
 せむると云○然其義雄ハ頗軍術も
 達し老切あり一人と名をえり
 廊城一覽子徳節高を以て義雄乃
 弟と一又伊勢亀を以て皆川山城守の
 室と云其子誤中同て今壬生世系
 傳壬生家聞書ホ子命せ考そ其終
 を云

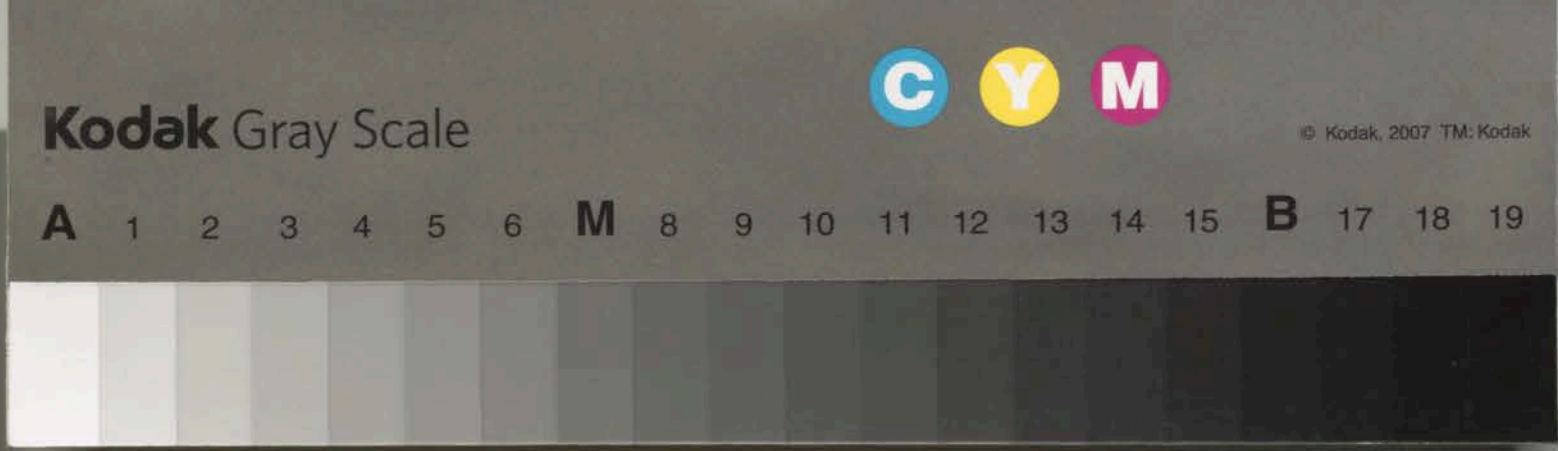
押原推移録上ノ卷

廿四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





又那須記小宇都宮う那須の川井の城
 を責し時の加勢を以て命を賜ふと又
 宇都宮より鹿沼に市齋の城を攻落
 しし由を書きしは沙身とあり保傳
 此頃鹿沼の城責といふ事法書と
 ろよとあるなり又年号未實事は合
 成と妄言ししなり明可之按る小宇都宮
 とし鹿沼城を攻落ししなりといふ
 昔大永三年鹿沼右衛門太史教清と

宇都宮忠綱の多氣山は出張して上
 野の系より合戦し教清討死し鹿
 沼乃ち宇都宮に属せしありしを
 混同せし誤りなり

此事中の巻の始に委り
 記は又川井の城責とい
 細房自身向きしりし
 前記誤りなり

鹿沼右衛門の考

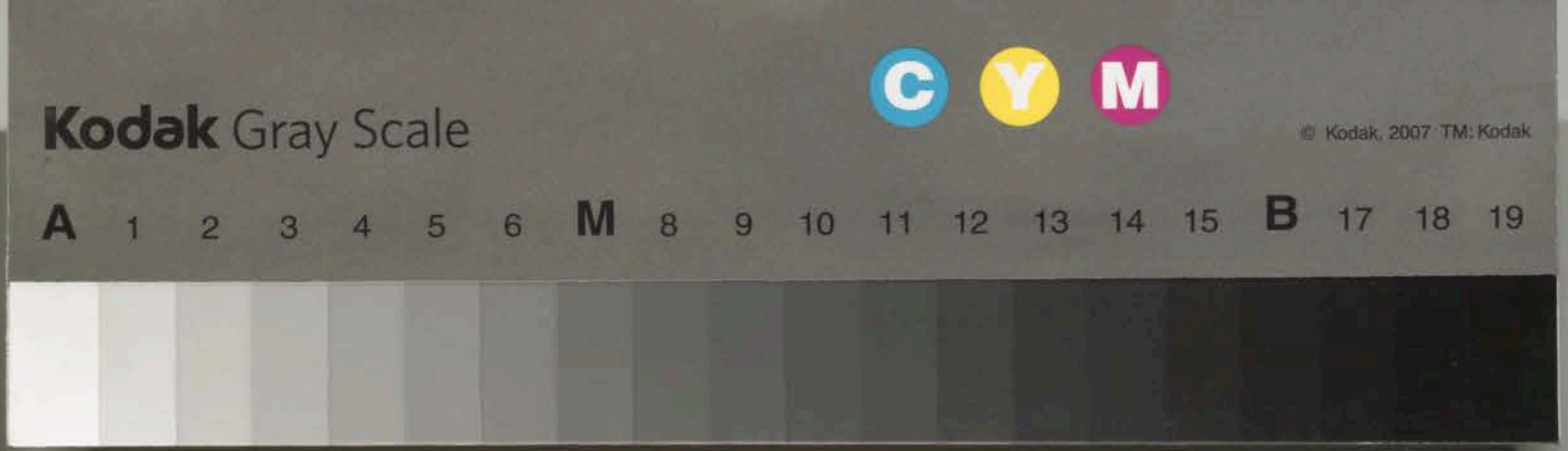
壬生記云徳市齋誅せしきて後其位鹿
 沼右衛門尉某といふ者殺るし多氣
 城主芳賀善可を頼りて鹿沼城を領ん

押原雅移録上巻
 廿五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1



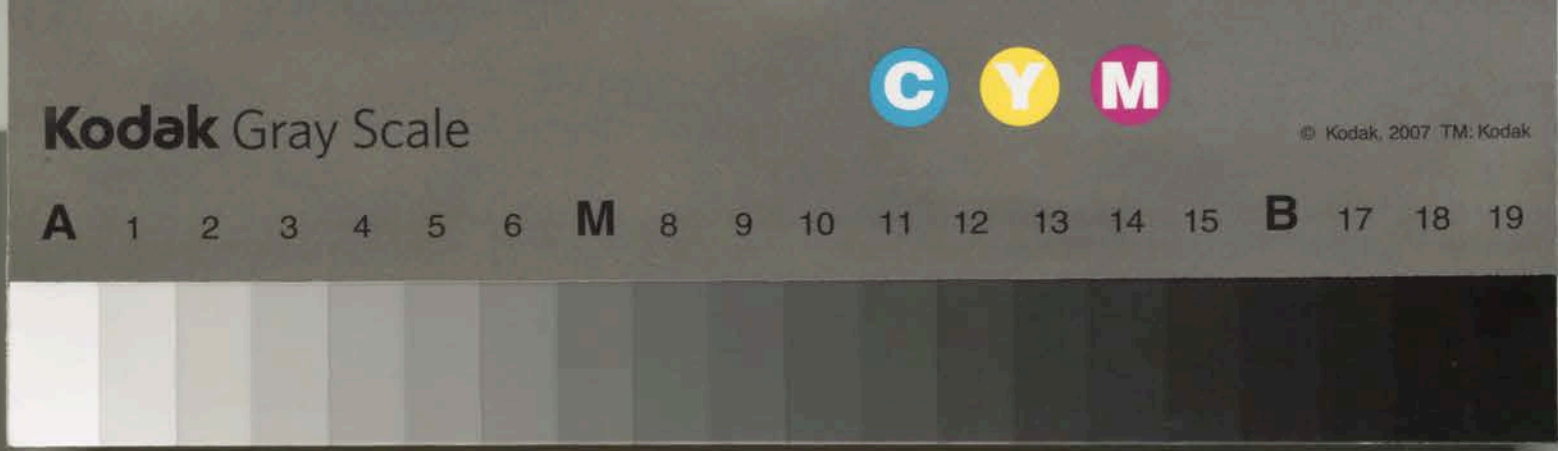


とは義雄兵を率し多氣城を責む
 右前戦敗し板橋に遁き板橋將監
 子殺やゝる云く以上摘要
 按小前子源せる元和六年苗書の中
 子徳節高兄綱房を弒し多氣の
 城主芳賀を頼し云くといふ条子似
 たり作者を述と彼とを混同し誤
 ありし又鹿沼右前門戦敗し板
 橋小前子殺さる云く壬生記のありし
 法書に載せられ是れ又據あるに
 非は土俗古先の口碑云く節高乃
 臣右前門某八郎鹿沼右前門太史教清の
 親し一一族あり教清討死の後徳
 節高の臣る名家の流るるを以て
 鹿沼右前門と号せし徳節齋誅せ
 らるし後板橋に遁き走りて將監
 近棟子殺さる云く
 ○今此口碑壬生記に暗合は爰に柿沼
 押原推移録上巻

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





廣運老人ハもと猪倉村産の人なり
 其語云今猪倉山に古城跡あり今土俗
 云傳ふ鹿沼右衛門の古壘ありと云本丸
 二の丸ハ更なる里内外の壘の跡ハ遠歷
 然々了ありと我ハ此語ヲ採テ考ム
 子鹿沼教清滅亡の後右衛門某鹿沼
 の姓ヲ継テ壬生家ノ属一猪倉城
 を守リ居ケ陽ハ壬生家の臣ト稱シ
 陰ハ密ニ謀ヲ巡リテ徳帝高を

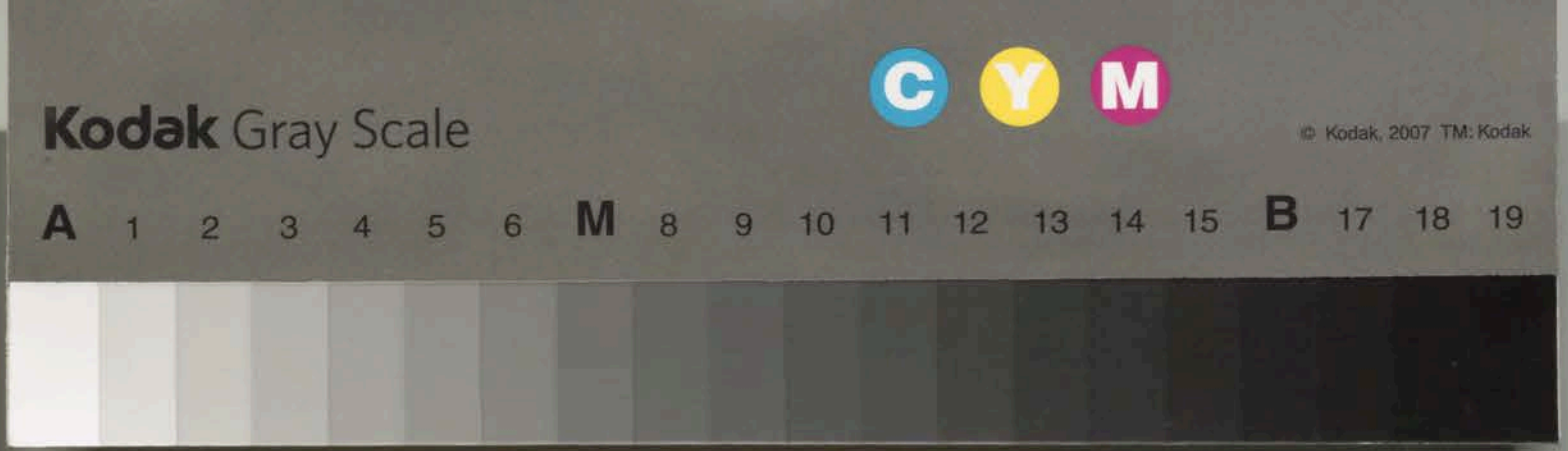
進め兄綱房を弑せしめ義雄と叔
 姪の間ニ闘争ヲ起スル其おのきハ友
 其虚ニ乗シ中々謀ヲ有シテ鹿沼
 城ヲ奪ハんとせしハ非ざる歟然レテ
 徳帝齋多氣ニ遁ルル其方加賀ノ城ニ
 あり義雄兵ヲ發シテ多氣城ヲ
 攻メ事前ニ詔スルル如シ其時鹿沼
 右衛門ハ多氣山ノ隣ニ猪倉山の
 城ニ居シていハゆる持角ノ勢ヲ恐レ

押原推移録上ノ巻
 七七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





右南門志を得て鹿沼城に控あ
 る。然る時ハ代々宇都宮家の怨敵
 なる鹿沼家の子孫ありて遂にハ大患
 ありて杯と思ひけり。多氣に出張
 して義雄を助け徳節齋を誅せ
 め。及て義雄を助るが麾下のし
 り。軍國の習ある謀ハ徳
 節齋守り鹿沼城ハ右南門守り

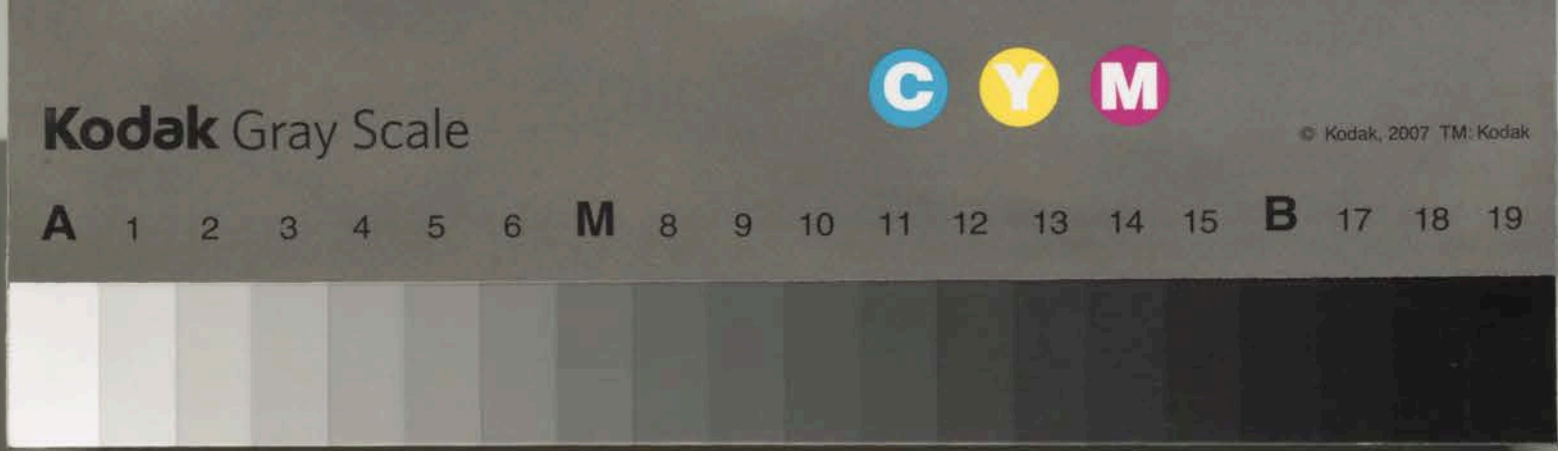
押原推移録上巻
 共六

鹿沼城に控あ
 る。然る時ハ代々宇都宮家の怨敵
 なる鹿沼家の子孫ありて遂にハ大患
 ありて杯と思ひけり。多氣に出張
 して義雄を助け徳節齋を誅せ
 め。及て義雄を助るが麾下のし
 り。軍國の習ある謀ハ徳
 節齋守り鹿沼城ハ右南門守り

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





杯といふ約ありしも志すべし
 ○是ハ今く予ウ臆祝子出る所より
 牽強附會子似たりと雖も猪倉山に
 鹿沼右五門の城治ありといふに合
 考る漫に按を附以識者是を見ハ
 蛇足の辨と笑ふありし
 此稿成りて後伊勢神官佐八掃部
 會江より信よ云佐八の家ハ宇都宮より縁
 ある家より往古より下野一ヶ國を擅家
 とす故に永祿年間より慶長の頃迄關左
 の列佐ト名の書状數通を蔵せしと云
 之寫しを是也と云ふ事申に
 如法佳例之千度之御被并為御土
 産廢斗以下山目水及赤存存
 以所祈念任合為少初尾代物之千
 進取中の宣此少く式失面目以委
 細ハ少使去り後以少く詳し
 二月廿二日 鹿沼下野守号石兩門

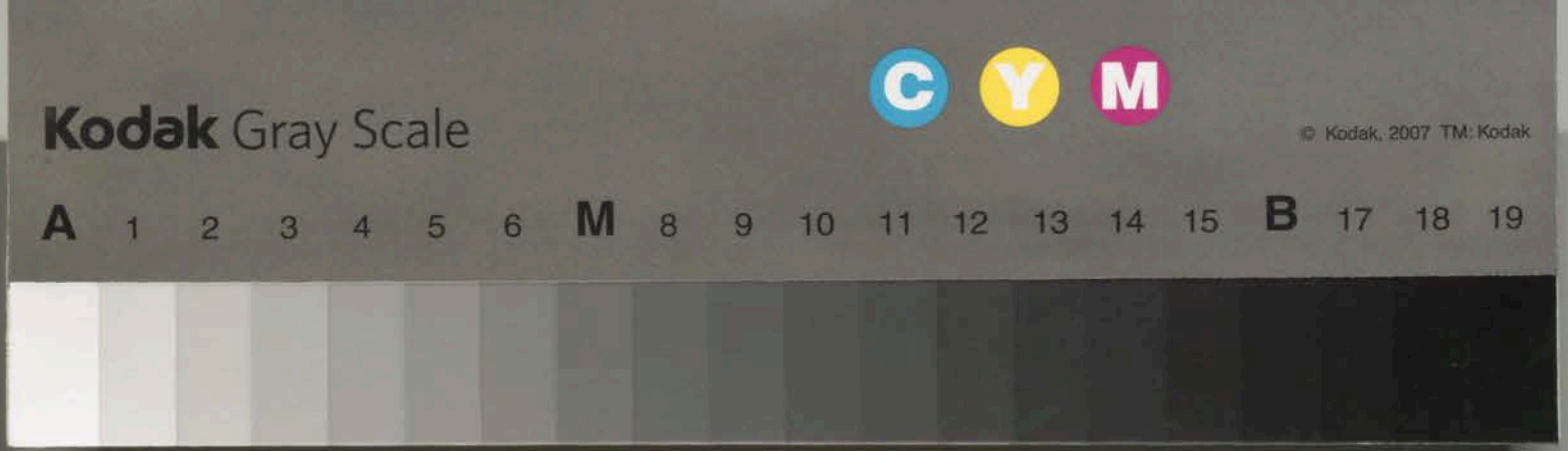
押原推移録上ノ卷

五九

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





又檀家名前和帖子
 下野國河内郡猪倉城至
 唐沼右衛門尉殿
 但一後神山下總守
 網の字を貰し歟但し下野守と受領せ
 一車穀か一一私に官名を偷くそ稱や
 一の歟都々壬生家書状の名系系圖に
 多し未詳記に後人ノ字を正し多
 壬生家後室傳説
 廊城一覽云義雄室八寛永八年辛未閏
 九月辛辰法昌桂院源室宗本大姉
 按ふ此説大誤也其の昌桂院之
 ハ義雄の先妻とて天正の初紀紀長

佐八神主殿
 考報々々

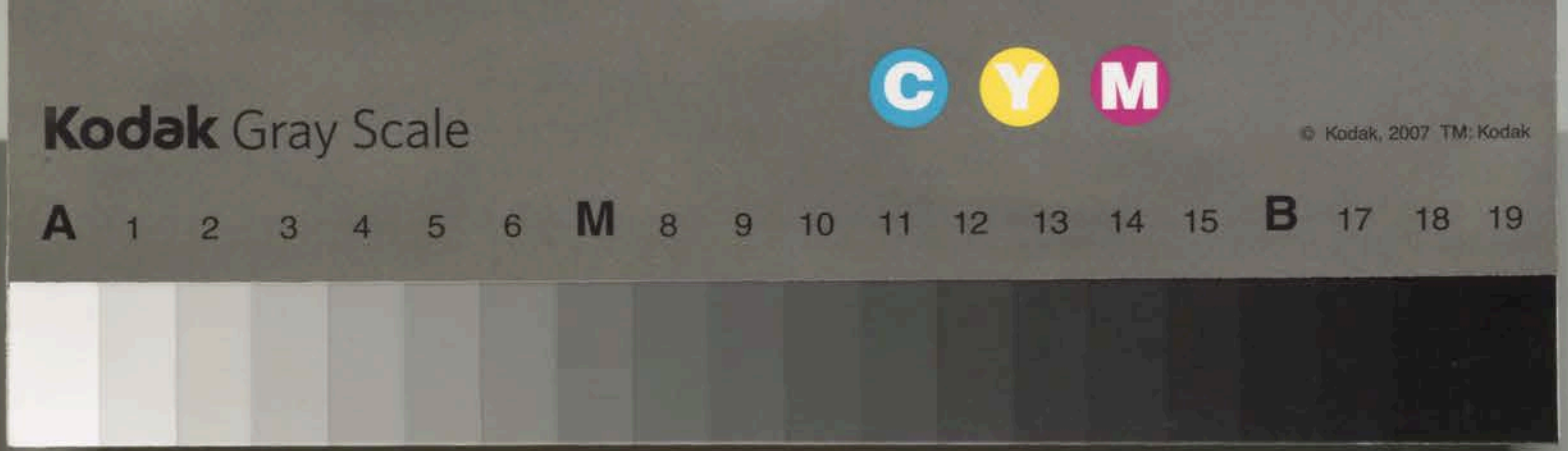
綱藤 始綱照
 後真綱

押原推發録上ノ卷
 三十

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1



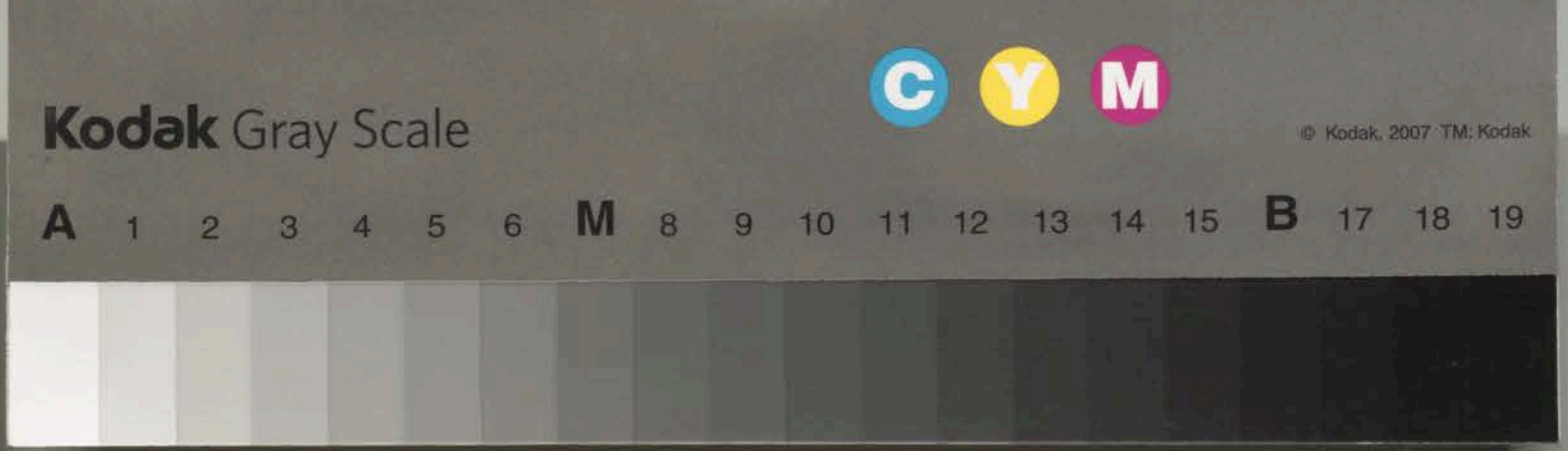


義雄没して後下南摩村に遁す
 一ハ後妻とて後七ツ石村に居りて
 今現に七ツ石村八幡の場内小墓碕あり
 法名正清院殿驗明守公大姉寛永
 十七年丙巳八月十二日卒
一ニ寛文五年巳八月廿日卒ス義雄の女子の
 用説あり如新ありとて證といは往古ハ亀和田
 七ツ石赤塚ハ一村とて惣てを亀和田村
 と号しとて七ツ石赤塚ハ地名の字あり
 一ニ之壬生家後室の住せし地名を
 今以て文字ハ後室菴と書て俗ハ
 カウレハと唱ふ今ハ七ツ石村の内也
 壬生家圖書云義雄没して後家の子
 郎徒龍ハ小あり一ハ後室ハ侯と共ハ
 城を出て指し下南摩あり一武氏乃
 許子隠し居せし一ハ一武家没後の
 後新木の下に雨漏りし地りて居
 錢あり家位在の計ふは任や亀和田
 押原推移録上ノ巻
 廿一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





村に移住し女子二人あり一女は先妻の
 子とす則一或左衛門に嫁り之後室は
 實子とせず母子二人刺髪して世を送
 らしむるに後日根柢織部
 正五石余乃田を子としてを養ふ
 此説を以て正しとす一は南唐
 城を一式左衛門といふは一は義雄
 の婿とす伊保島之夫あり一は伊勢
 島の傳普く諸書を詮鑿す身と
 とも考按とす一は其の更なる
 五人の語云は後室は後日臣の者共壬
 生家五代を令せし七石村より於てハ
 幡と祭るの五石餘の田地を令以て除
 地よりハ幡の社領と一或金三徳代
 守護の金三徳住居乃地ハ則ハ幡の塚
 内より地名御屋補とすハ
 稻葉村三上氏語云一式金兵衛の家
 後室の婢女一年懐胎せし事あり

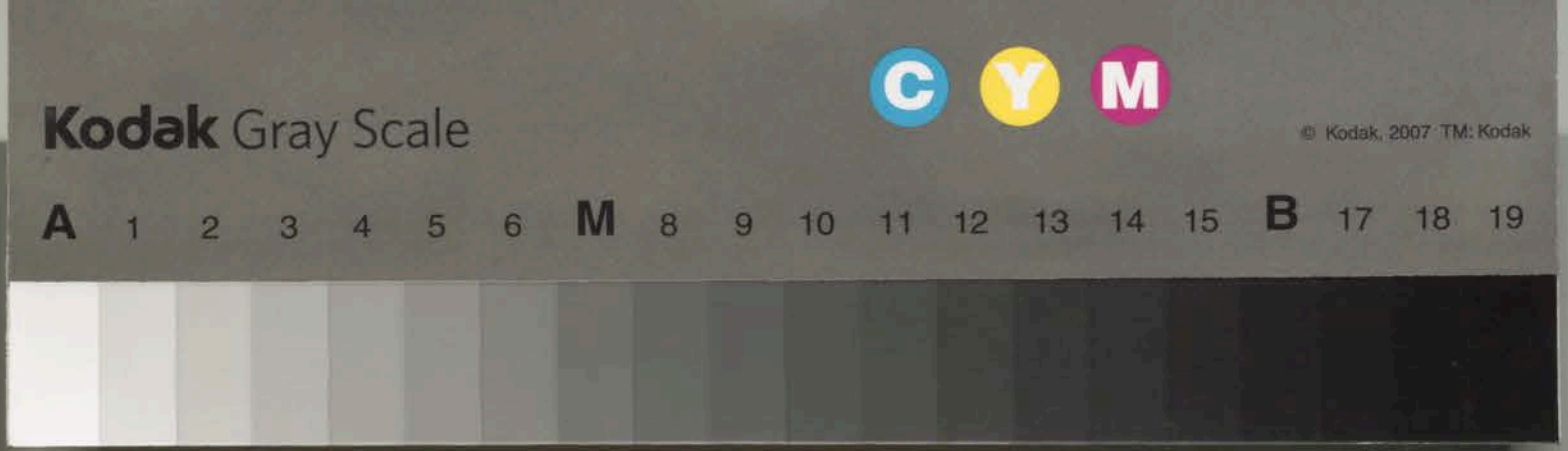
押原推移録上ノ巻

冊二

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





後室の討ひし平鹿の男子を以て一武家の統を継ぎて字を金左衛門と号し其の婢女は後室の父親とありて妻木平十郎に嫁りて之の箱葉村之上民に生家老臣の家を継ぎ先祖の傳來せる書物系圖の類を數多所持せし由か此書を編み附し其書を乞求めて之に壬生家系圖亦世に流布す

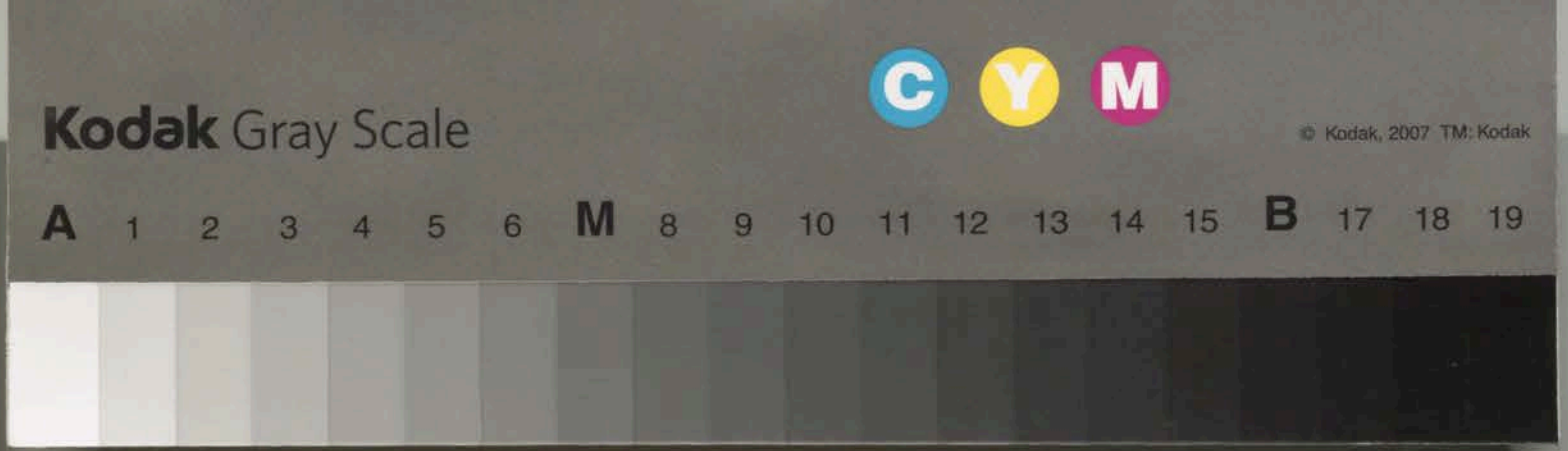
一と稱する所の鹿の之を以て城邊の沼に玉俗の浮説ありて明證ありて又後室と号せる義雄の妻は氷江の義雄の娘ありてあるとも史より八年數大に相違せり古書といふも記述人の心に取捨ありて杜撰ありて非ざるを悉く信ずるは故に後世に昔の實事

押原推移録上ノ卷
世三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





を探得ん事の難き事をいふも志す
 魚
 ○壬生官勢君日光 御神忌より即通
 行の節ハ此八幡の祠小立寄せし
 舊例より金百匹奉納ありと
 壬生家聞書云義雄没後結城少将
 秀康公壬生を領し文禄三甲午年
 捨地を入り村の高反以盛分米極
 る慶長五年秀康公越前福井の城に
 御國替十二万石加増し七十五万石領し
 給ふ此時壬生家の浪人を召抱ふ家
 中村より金江遠江磯隼人伏木因幡
 高田民部向山半六渡邊加茂外喜木
 掃部若井鴨之介刑部角兵衛等外所
 子散在せり輩御扶持人を召置り御供
 申せし事之
 因小記に慶長六年日根碁碓部正壬
 生を領し寛永七年庚午村に新田を

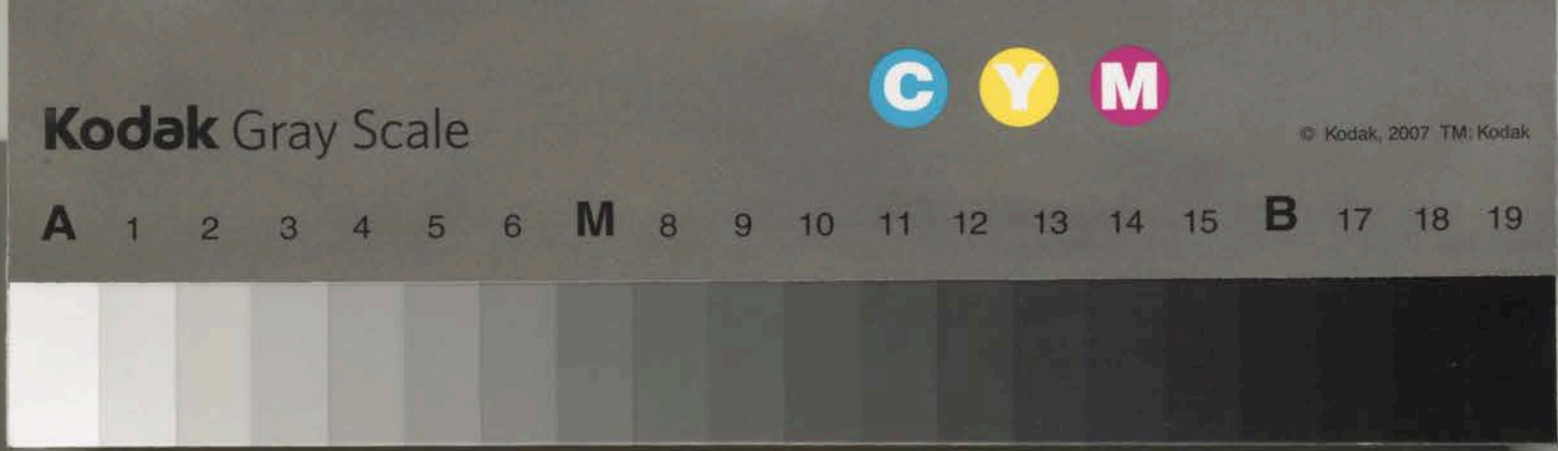
押原推移録上ノ巻

世四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





建_る ○同十年甲戌_る 阿部豊後守忠
 秋領_る ○同十六年己卯_る 浦志摩守
 正次領_る 同志摩守安次壹岐守直次之
 代領_る 安次之代_る 結城家之捨地を改
 心萬治元戊午年捨地_る 之浦家捨地
 以来神社佛閣境内社免寺院の除地
 神社の免田を寄附_る 之浦家之代五十
 余年領_る ○元禄五壬申年日向國國替
 ○同年_る 松平右京高領_る 此時退手

三月月堀普請之元禄六乙亥年上州高
 崎國替 ○同年_る 加藤越中守領_る
 ○寶永四丁亥年高役公事起_る ○元禄
 九年元禄金通用以加藤家之代領_る ○
 正徳二年_る 鳥井伊賀守領_る

壬生家割符印の説
 壬生家聞書云長禄年中京都壬生氏乃
 兄弟武を好_る 公家の交りを捨_る 兄弟
 東西_る 別_る 諸國を武者行_る

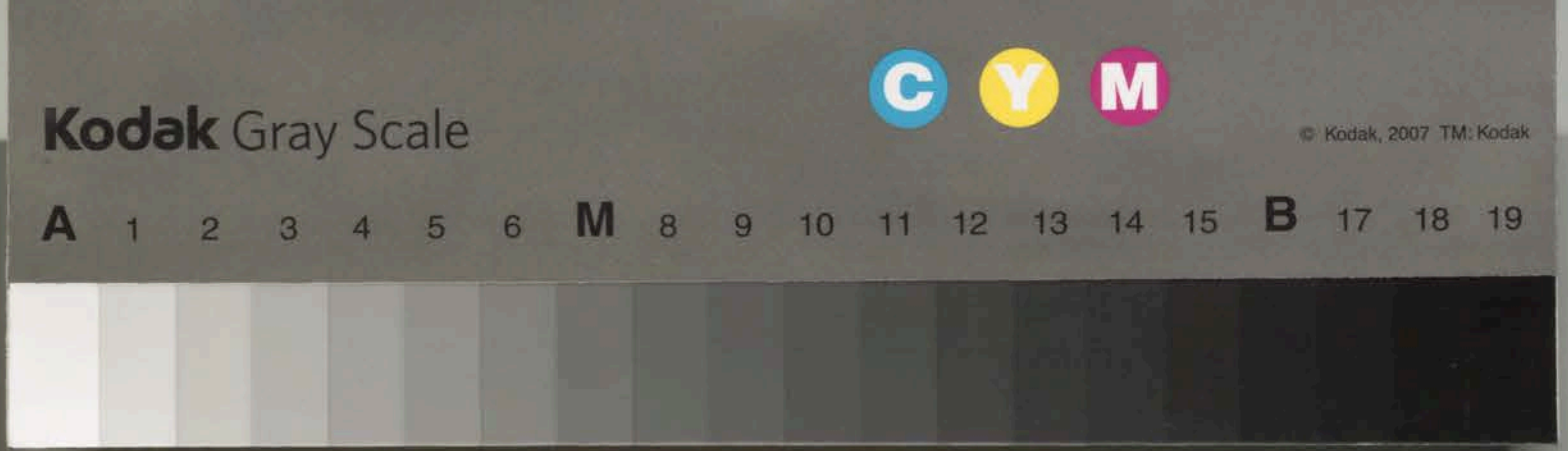
押原推移録上ノ卷

卅五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





りるが互に割符の印を持て假行未
 の子孫に至るとも廻り逢事ある此印鑑
 を以て證とすししとて立別きけりて我
 舎兄ハ北國を巡りけりとも然るへき出牙
 にもありしるもや再京都に歸りて先祖の
 家を継て代々壬生官勢と号し弟ハ則
 壬生彦五郎始祖筑後守より下野國に下りて城
 を築き則壬生を以て所の名とて此割符
 の印代々壬生家ハ相傳て則義雄の後
 室の許にありしと我後室在世寛永
 十一年家光公日光御社参の時壬生官勢
 君日光山の御下向の時亀和田村之明院に
 立寄せし事安良私曰之明院ハ七十年前故ありて赤塚
 村に移りて今ハ龍山龍光寺と号し眞言宗之
 壬生氏の子孫を尋多ひて壬生氏の後室
 ありて代々傳りて割符ありし印乃
 證を以て後不違しとて沙尋ありしハ
 更歟是歟と印判共數多押て奉りけり
 とも皆割符に非はとて對面よりはさる

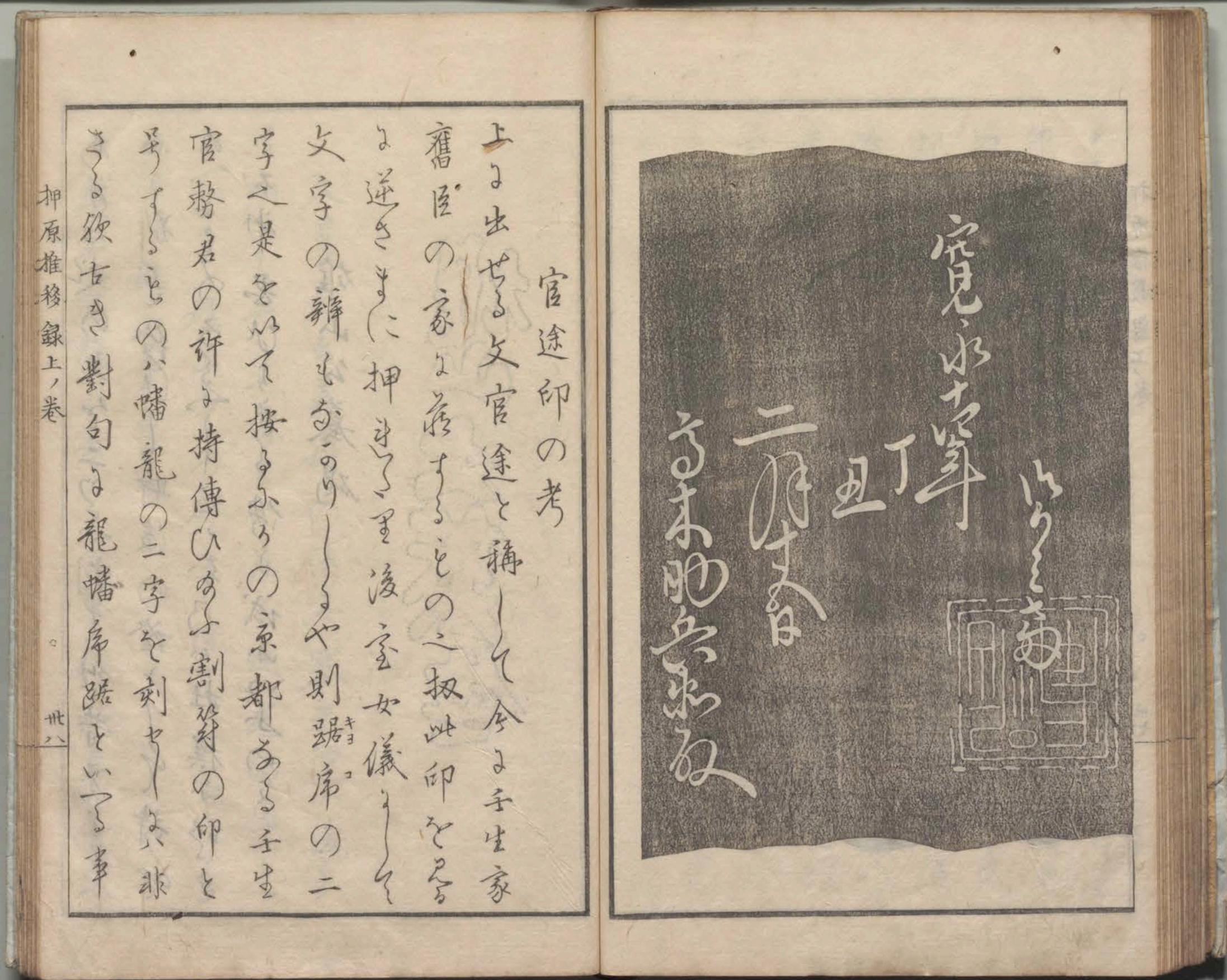
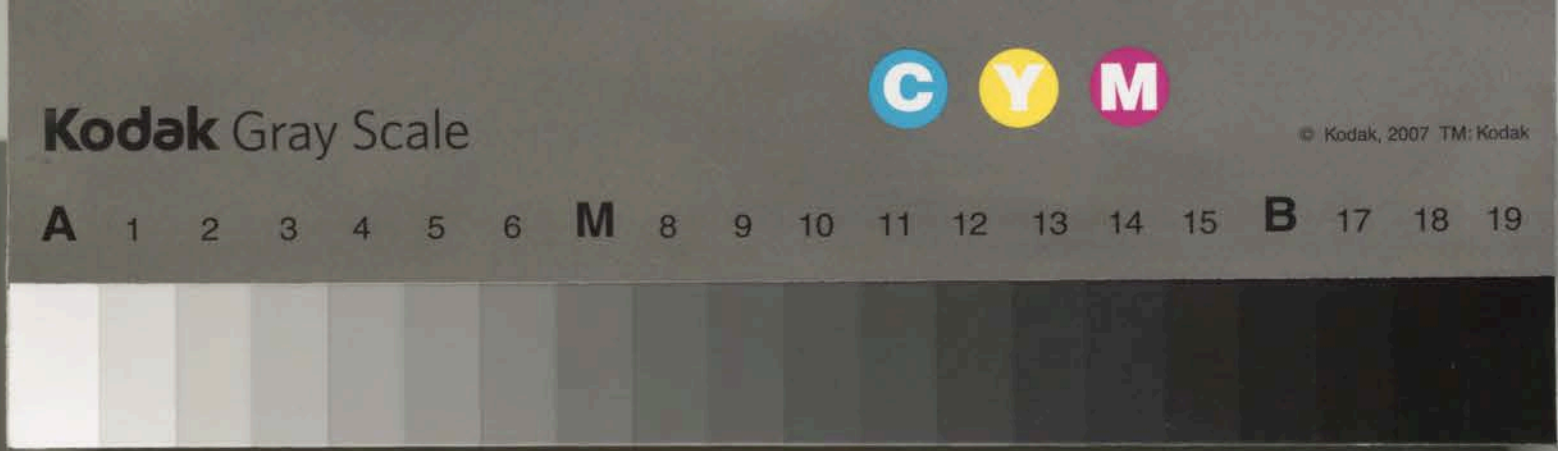
押原推移録上ノ卷

世六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1



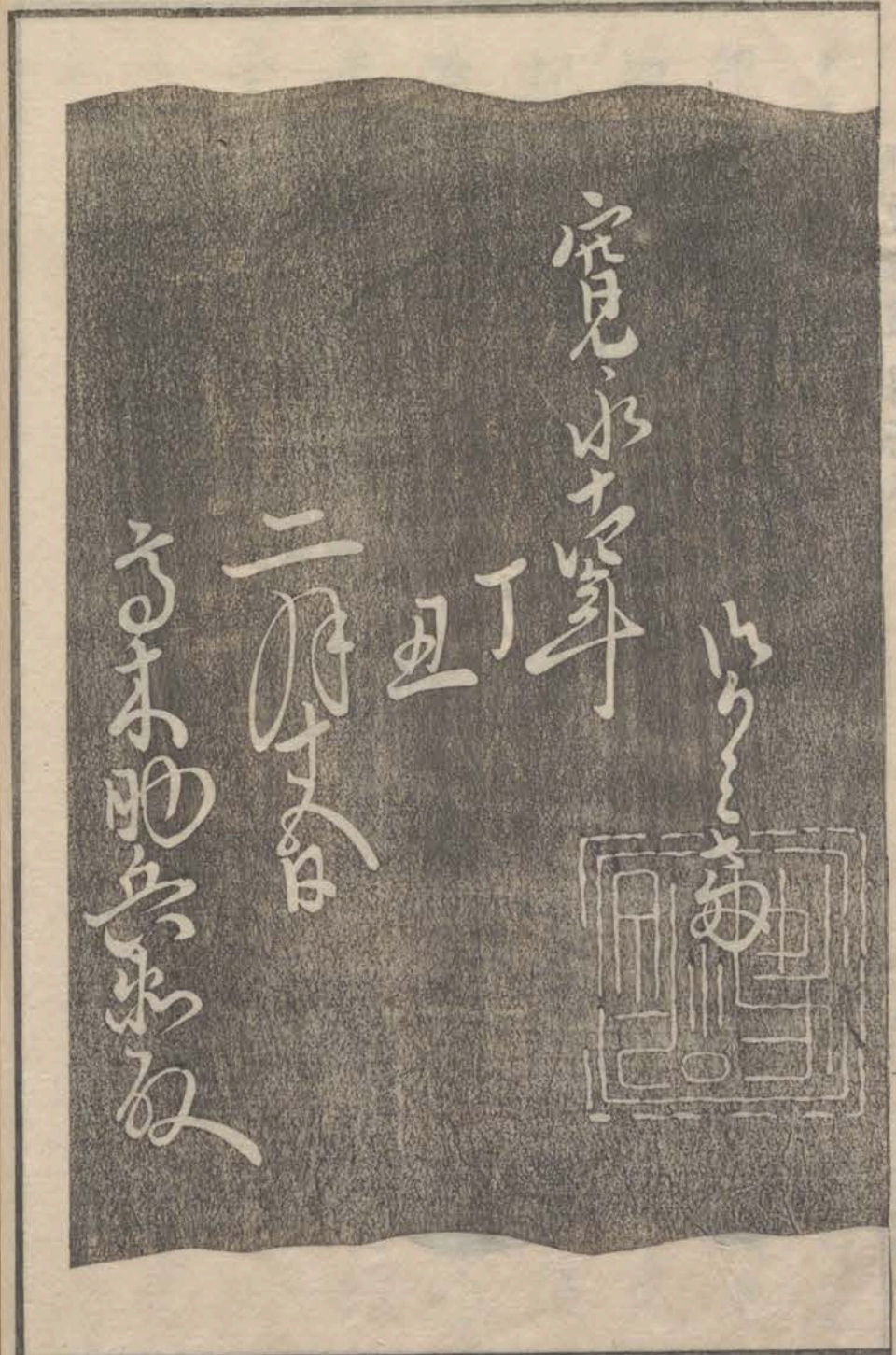


官途印の考

上に出せる文官途と稱し今壬生家
舊臣の家は存するもの之扱此印を
よ逆さきに押さるる後室女儀
文字の辨もあがりしや則踞席キヨの二
字之是を以て按ふるの京都ある壬生
官勢君の許に持傳ひあり割符の印と
号するものハ幡龍の二字を刻せし非
ざる歟古き對句は龍幡席踞といふ事

押原推移録上ノ卷

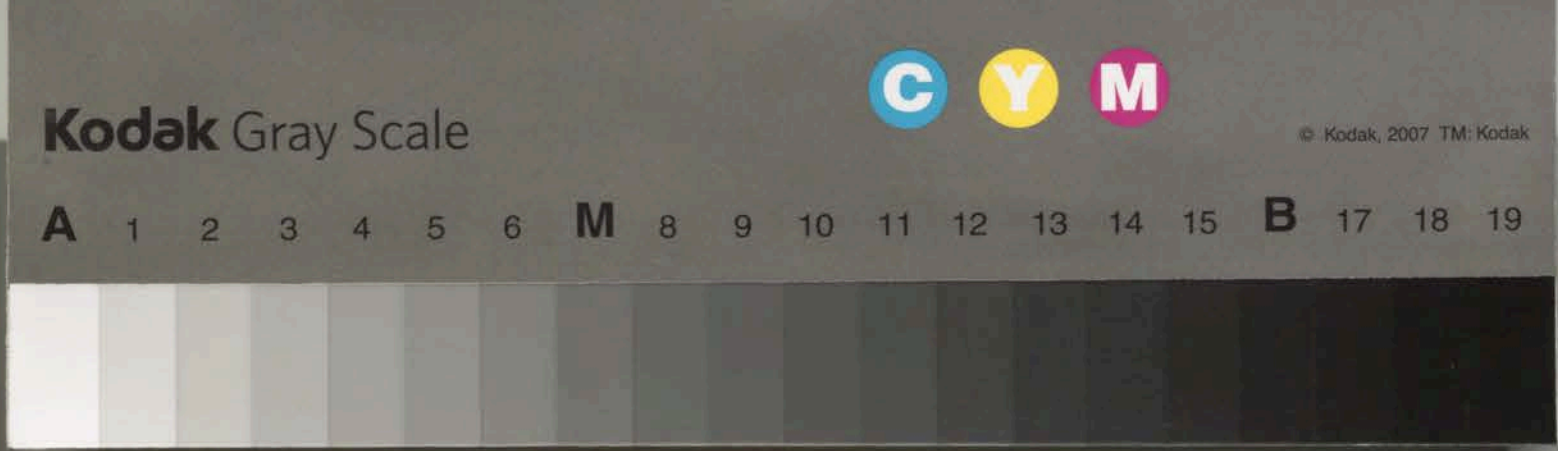
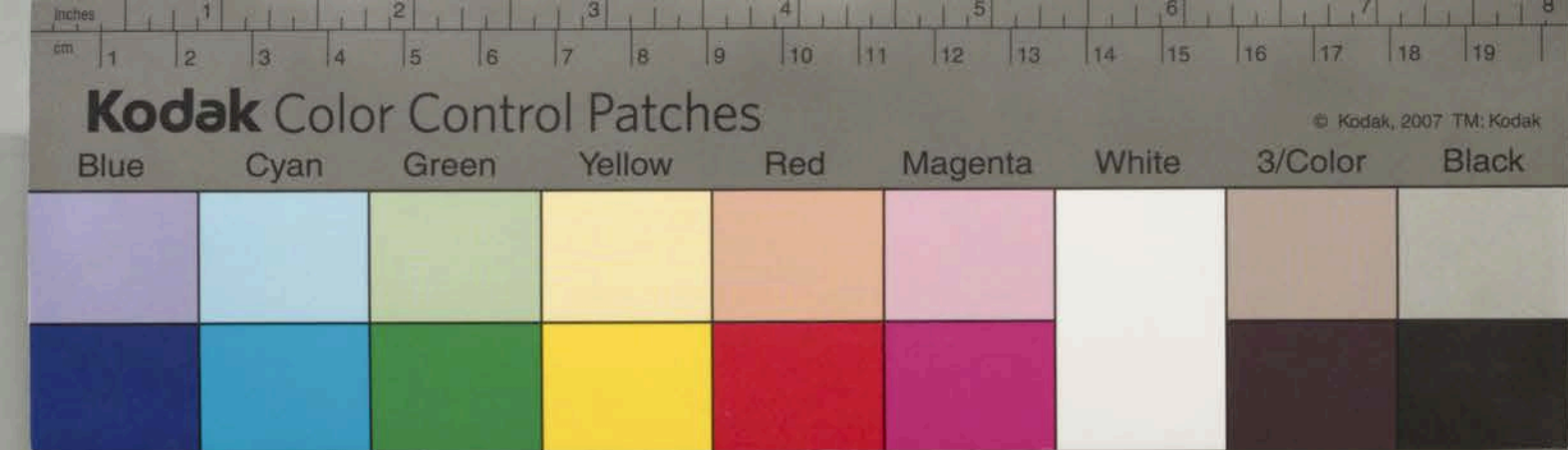
卅八



142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





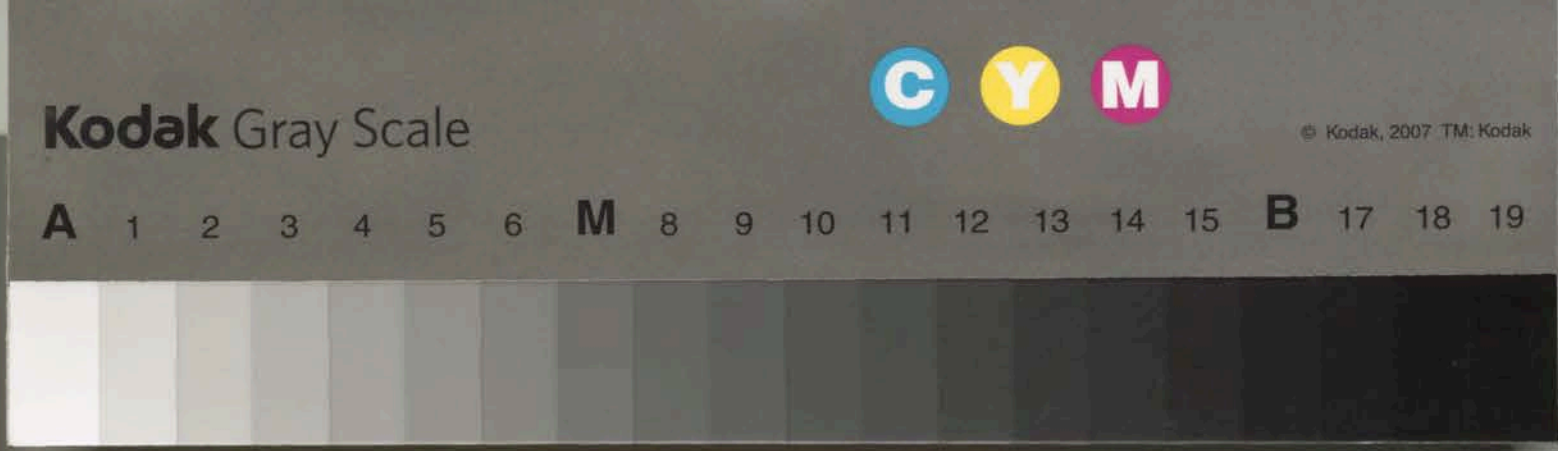
あやむの文を二ツ小割て往昔兄弟東
 西に別を給ひし時後の詮とて持せ
 らるゝものありしこゝなるが杜撰不似せ
 と不斗思ひよきる佛に試ふ所のこ
 雄山公墓碣

天正九年
 文翼翁云義雄の法名寒光院ハ後子
 加さるやう之殊に七月小寒光の字と
 いう雄山寺の碑ハ院号なり
 雄山寺由来
 奉寄進雄山寺之本尊釋迦牟尼佛
 押原推移録上ノ卷

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





新造切成更觀世音菩薩莊嚴
 下野州都賀郡西鹿沼村西鹿山光照禪
 寺。往古濟家法窟中古曹洞門派禪窟也。
 開山天竺正遵大和尚。往古百六十有八年
 已前。天文七戊戌年之開基也。其後領主壬
 生城主上總公殿為菩提寺。則上總公殿
 守護本尊阿彌作佛聖觀世音菩薩。御
 長七寸。令坐像則安置為當寺之本尊也。
 然天正十八庚寅年七月八日。上總公殿逝去。

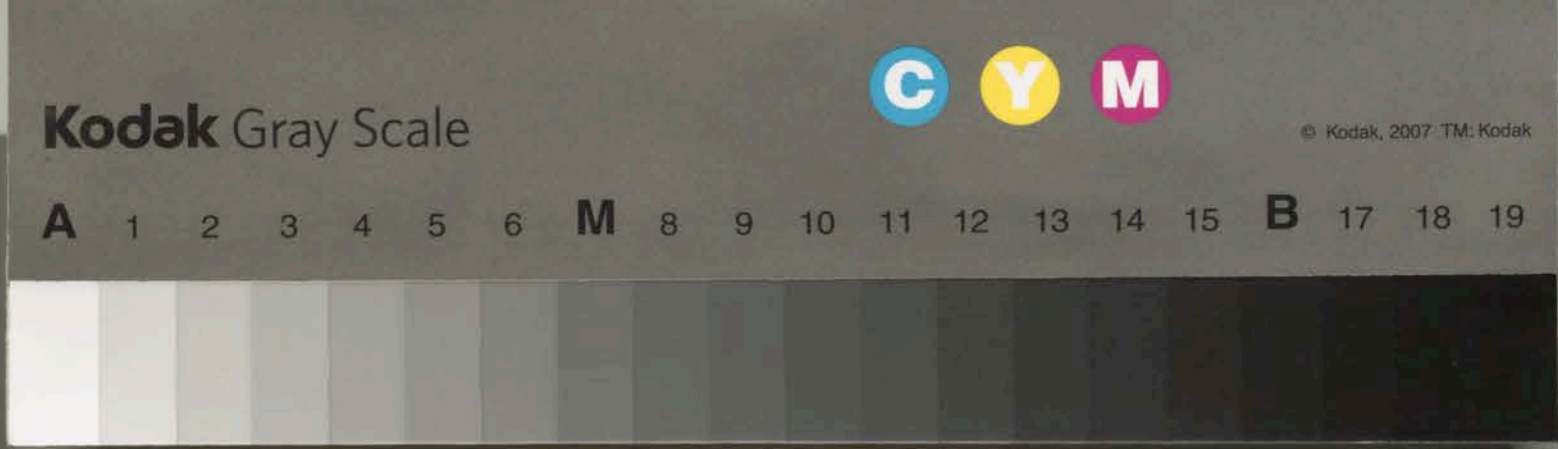
華於此寺。奉號雄山文英大居士。故以寺号
 改雄山寺。自天正十八年。至于元祿十丁丑而
 年及百十有六年。予從主命而為此所支
 配。未往春秋而彷徨八年。元祿八己亥年
 初夏二十日。家内妻死。葬當寺畢。境節
 任持祖周和尚。斯寺之本尊。雖欲安置
 釋迦如來。自力不足。久經星霜。且為二者
 菩提。且為未代切德。希大生社焉。古強
 而以此所勸。願不得止。而應和尚索。而令寄

押原推移錄上卷
 四十一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





進釋迦如來之尊像一佛造之而奉安置
 雄山寺本尊又所令在嚴觀世音菩薩
 尊像者也為二佛造立與在嚴予志之昔
 趣者但偏欲為亡妻華安法榮大姉菩
 提也時元祿十丁丑年月日施至飯沼四郎
 右衛門源重賢敬書

義雄區說
 壬生物語異說云天正十八年豐關白東伐
 相之北條氏也義雄隸北條氏與諸將共

守竹浦口北條氏滅後豐關白將改封義
 雄皆川山城守廣照如七月八日飲義雄
 毒酒殺之酒勺川上云々

父翼翁云按諸書載慶長中皆川
 廣照之相公子忠輝君進退可觀似
 非殘賊之人予鴉殺義雄事豈其
 然乎

武德編年集成曰天正十八年豐臣秀吉
 東征宇都宮國綱雖陽屬豐公實未

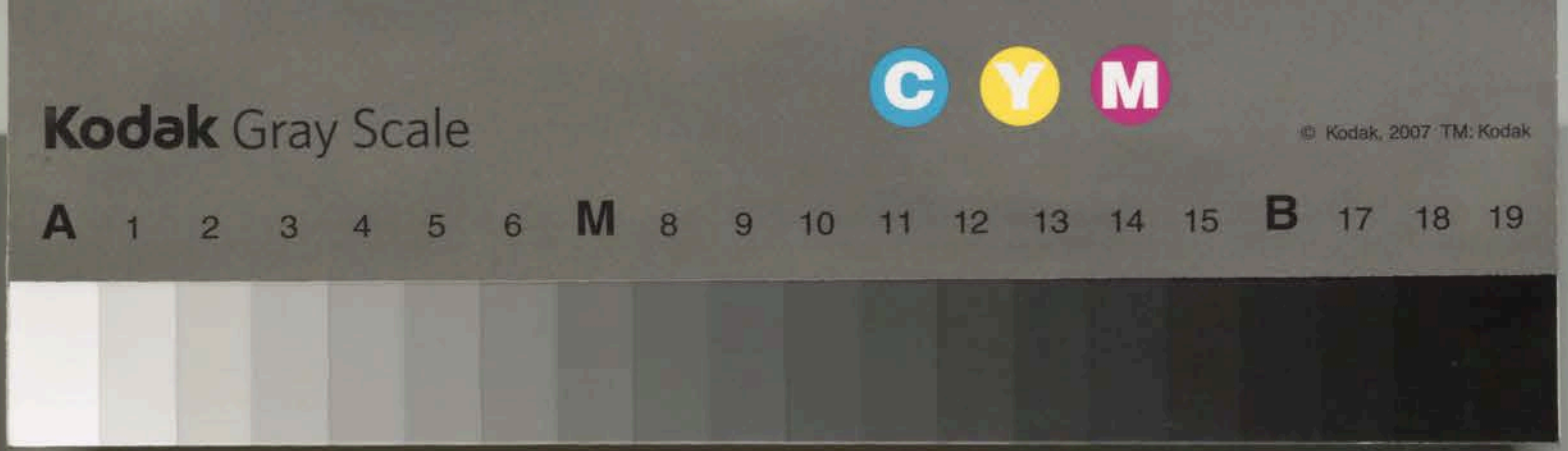
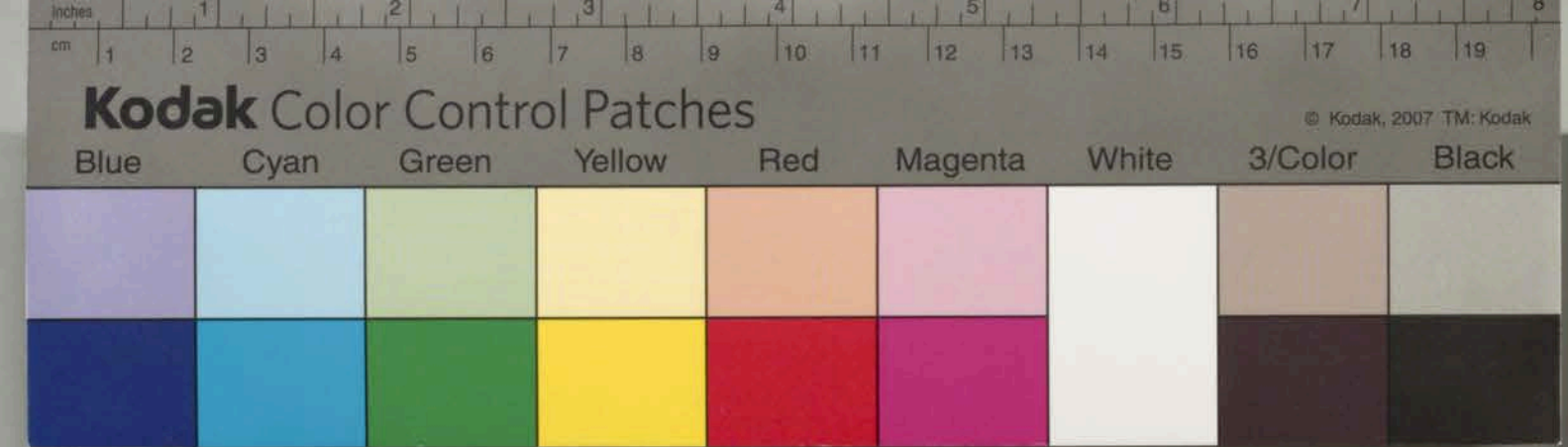
押原推移録上ノ卷

四十一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1

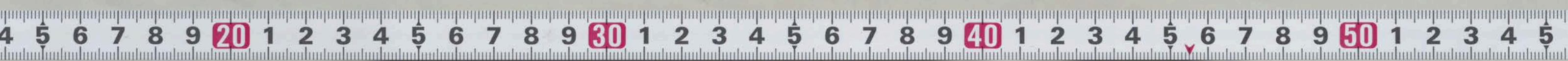


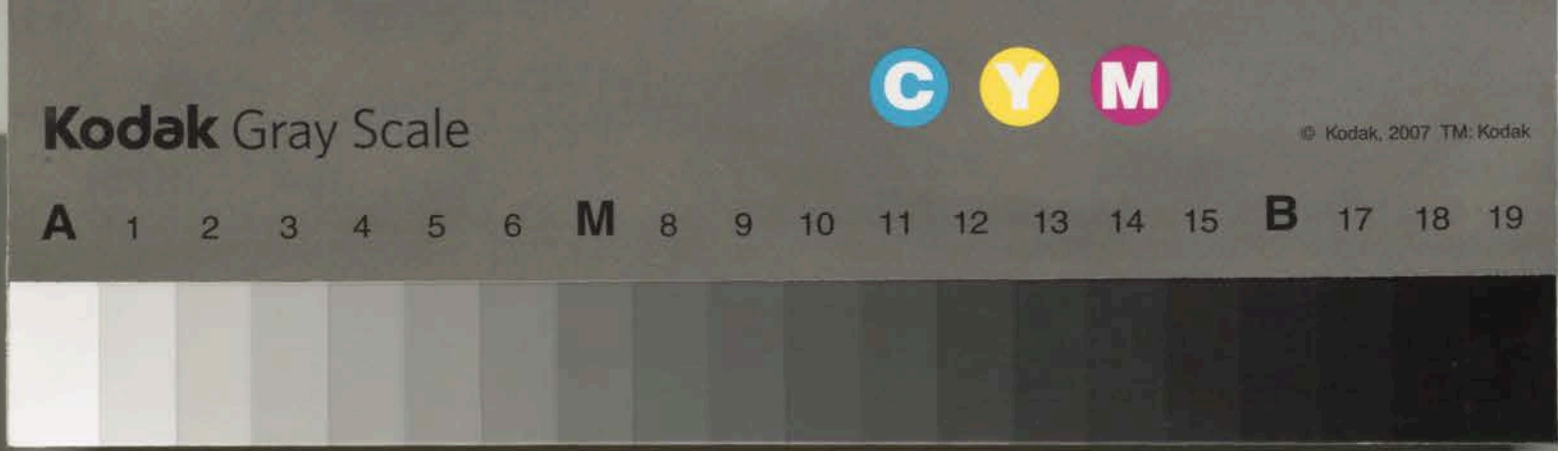


絶_ニ於_テ也_ハ條氏結城晴朝窺_リ國綱_ヲ為_シ首_ト氣
 兩端_ノ計_ヲ是年五月攻_ム國綱_ノ所_ヲ與_ニ親義
 雄鹿沼城_ニ甚_ク急_ニ小山七郎政照出_テ師_ヲ為_シ
 鹿沼_ニ後_ニ援_テ城_ヲ固_メ石克結城重臣多賀
 谷重經放_テ火_ヲ羅城_ヲ燒_ク之_中石能樂戰
 皆_レ曳_レ兵_ヲ而_レ遁_ル小山師_モ亦_レ敗_レ走_ル晴朝又_レ進_ム兵
 拔_テ小山_ノ樓_ヲ本_ノ兩城_ヲ遂_ニ諸_ノ豊公軍_ニ告_テ捷_ヲ公
 大喜_ニ晴朝_ノ功_ヲ御食_ニ禮_ス之_云
 父翼翁云此說大可疑諸書_ニ各_レ攻_テ子生_ヲ
 子生家書狀の寫
 伊勢神官傳八掃部菴の内
 前々々宮中_ニ子生_ノ事_ヲ記_ス之_云此_ノ中_ニ
 合_テ此_ノ子生_ノ事_ヲ記_ス之_云此_ノ中_ニ城_ノ寫
 押原推移録上ノ卷

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





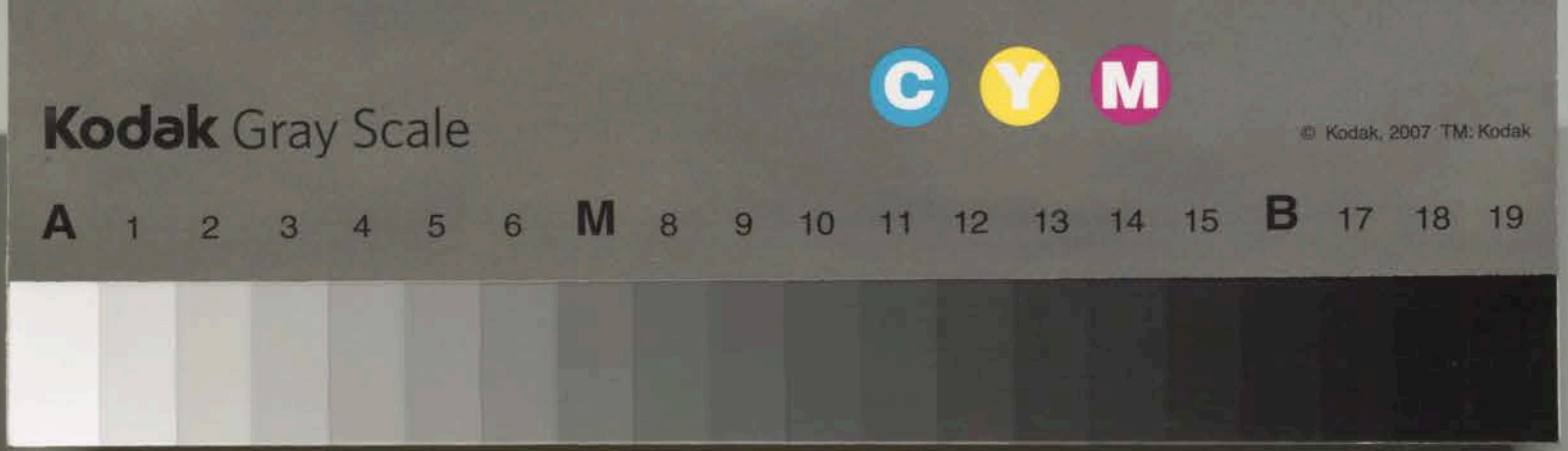
下野國有銘、由來訪、繁一、家風
 于外、地、下、人、不、何、家、之、方、其、亦、可、改、立、指
 也、何、状、如、件、可、
 弘治三年丁巳 中務左大臣
 十月 綱雄
 伊勢内宮
 佐八美濃守
 又
 此每年於伊神前有勤行于后
 押原推移録上ノ卷
 四三

弘治二年
 十一月十日
 佐八美濃守
 綱雄

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1



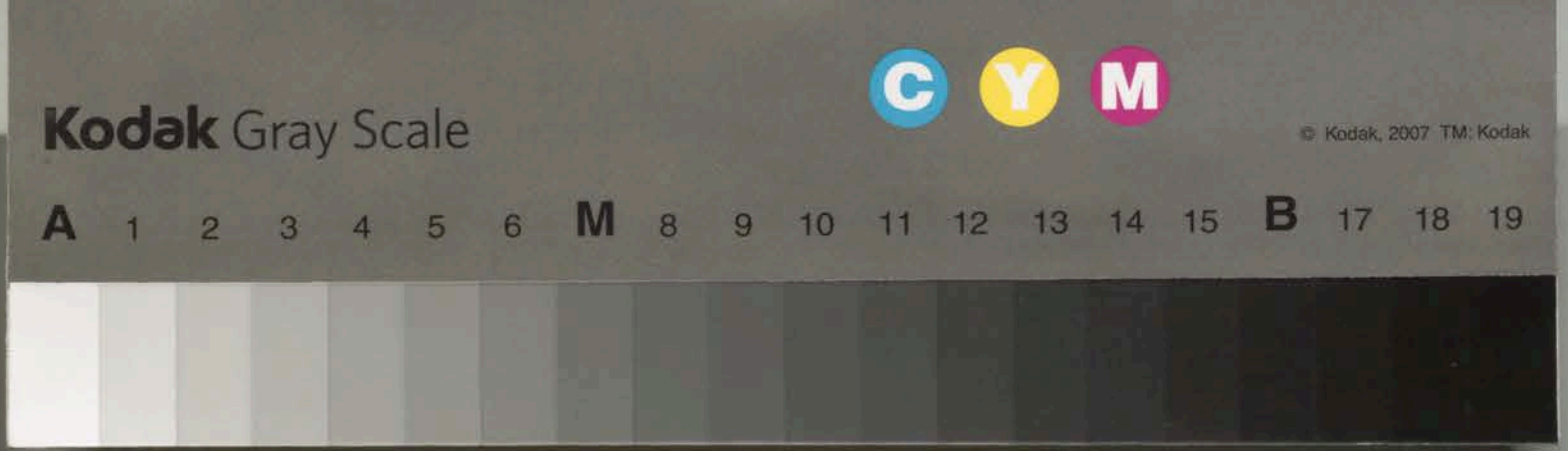


所授右麻葉土產不無少字目出度
 重水于生鹿沼有他之石土貫文
 進神法武運長久之子孫安昌之
 念事彩一系實神位至任入其
 卯月廿七日 中勢古史 義雄
 佐八八神 至殿 山部
 慈之好之川中娘伊勢龜也煩之百
 方神樂之立願也則平元之間備
 是為之於武貫文之量之黃金八兩
 不登也子孫安昌奉命長遠之
 言於水行は只之川中石能具位
 天正十二甲申 上徳女 義雄
 二月廿日 神主殿 山部
 押原推殺録上ノ巻 平四

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





修葺奉為神宮の由言花は古く是永代
 進納可や取移は少く是等由取
 新一此上も進退可なり是等由取
 進上可なり仍如件
 永録四年酉 壬生一家
 十一月廿九日 大門資忠
 村井地、百七 合記百七
 初産地、百七 佐八掃部丞後

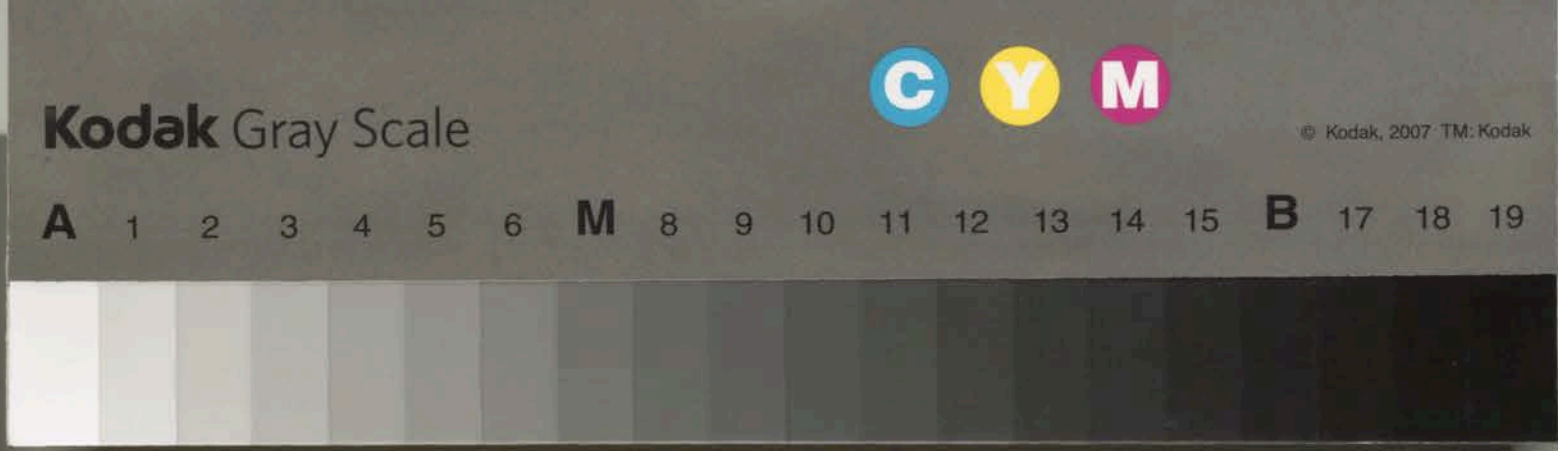
按小大門資忠の末葉下酒ノ若村に
 居り農家孫立其傳是也
 大門次郎の末葉ハ中酒ノ谷村農家
 勘左衛門也
 壬生氏世系考
 今此書狀小依て按子壬生系圖に綱雄の
 名を洩せし思ふに綱房の子綱雄を
 綱雄の子義雄ありし故ハ天正四年
 綱房害せし由諸書に載りし難

押原推移録上ノ卷
 四五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





又より八年敷相違せり今宮棟札は天文
 二年網房新造の事や記し二男生禪
 院年敷十七とあり系圖に生禪院を
 網房の弟とせり誤りあり今現に今
 宮社に在り残る棟札の表を以て網房
 の二男とありぬるは然も長男ハ綱雄
 といふ事ありあり一系圖に網房の嫡
 女伊勢龜と記し是れ又誤り伊勢
 龜ハ義雄の娘とあり赴前よりあり
 文面を以て之ハ然も網房の年敷此時
 四十ありも余り一天文二年より至
 四年網房天神の社前より弒せり
 五年年敷四十とあり是れハ六十に
 解きて兄綱房を害して城を奪んと
 せりといふ網房の子綱雄とて徳
 八甥綱雄を殺して城を奪はんとせり
 あり一然も綱雄ハ義雄の父とて天文
 四年より六十存あり一坐禪院ハ此年と

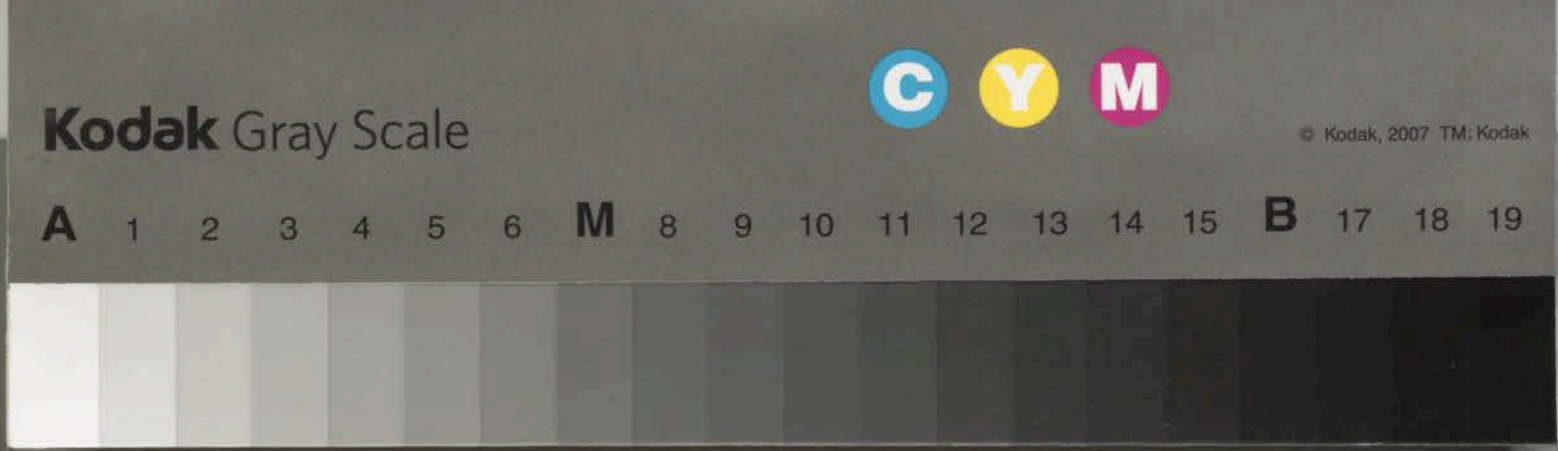
押原推移録上ノ巻

四六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





五十前後ありし一は是を義雄ハ綱房の孫
 也考より壬生系圖を作す時に父子を混
 同せしむる一惣て後世より推す世系を
 次第する時ハ法名年月實名ハ念定んと
 するに不分明あるを遂に考證ハ違ふ事
 あるを記者の心乃中ハ使らば思ひ
 ありし紛ハ置類多くあり是を弄し
 く辨論せらるハ正史實録といひ難
 し

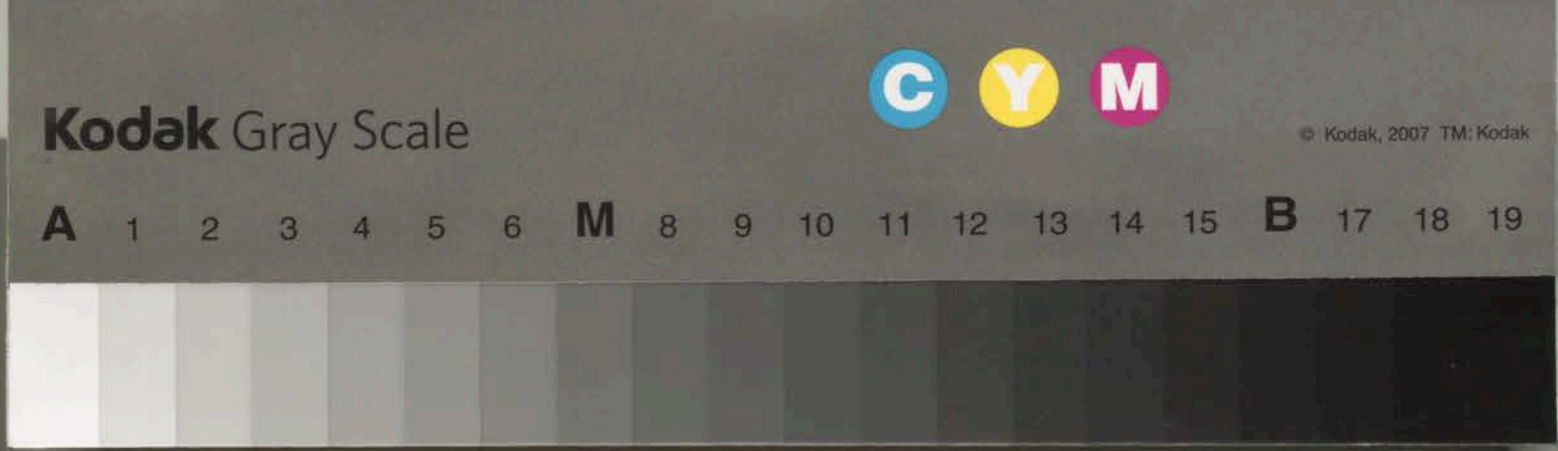
押原推後録上ノ巻

四十七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





壬生家舊臣姓名録

大木久作	朽木近江守	伏木勝左衛門
青木形部助	渡邊大左衛門	篠原助喜恵
鶴見九兵衛	鶴見助兵衛	松屋計四郎左衛門
安西勘太郎	渡邊孫左衛門	藤倉與三右衛門
加藤喜兵衛	大門源兵衛	<small>野州西南間村 成城會津ノ家中成</small> 南間手計
池壁兵衛左衛門	畑野彌左衛門	小曾稱金治郎
増田理兵衛	川壁新右衛門	高木織部

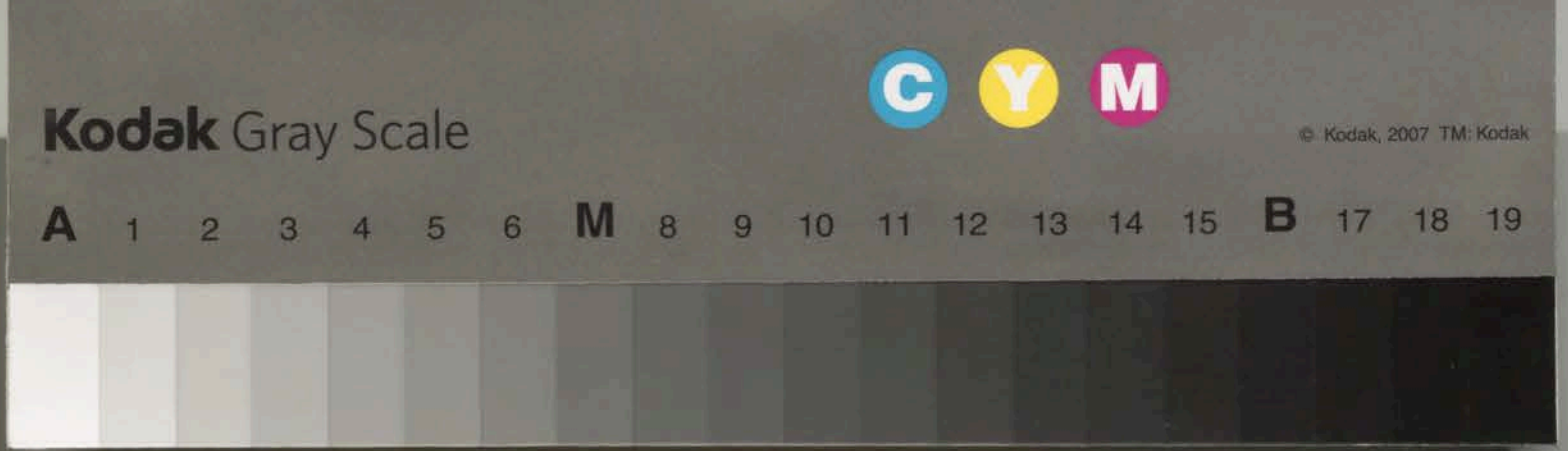
押原推移録工ノ巻
四六

玉田藤兵衛	早乙女常心	大木治郎左衛門
中村善太夫	鶴見大學	伏屋彦右衛門
大塚孫右衛門	加毛加賀	加毛作兵衛
田邊治郎吉	渡邊縫殿助	朽木久兵衛
稻葉九右衛門	早瀬忠左衛門	酒井主税助
大麻大蔵	大麻勘解由	長井源左衛門

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





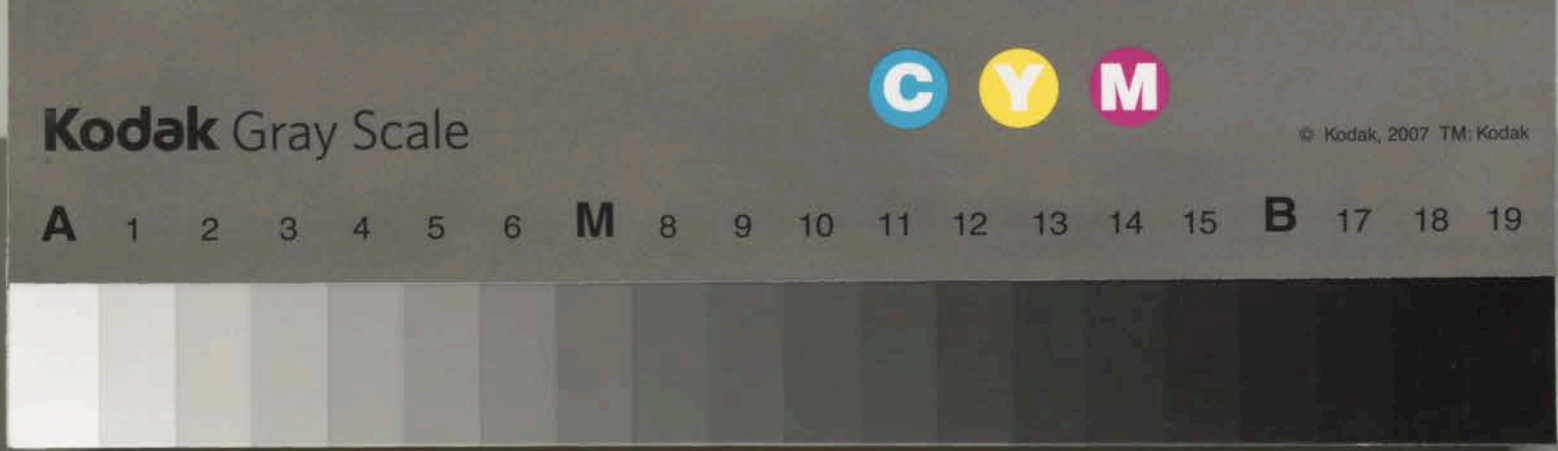
押原推移録上ノ卷
四十九

高木半兵衛	小曾稱喜内	小曾稱勘解由	鈴木七兵衛	杉江幡摩守	小野作右衛門	小野左吉	中里清左衛門	奈良部宮内	黒川助七	黒川長朋	田邊八右衛門	稲葉右近	篠崎新左衛門	長井源左衛門	若森織部	九野左傳次	九野久助	九野三左衛門	藤倉理兵衛	若林市助	
小野瀬兵衛	小野五郎左衛門	田嶋茂右衛門	戸祭大膳	篠原左衛門	黒川舎人	遠磨四郎兵衛	大貫作右衛門	森戸貳人	高埜左傳治	谷口與右衛門	谷口喜兵衛	谷口治郎	谷口太郎	惠賀良	惠連貳人弟	大木久右衛門	廣瀬矢八	松嶋新太郎	外山右京助	和多利掃部	中嶋與右門

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





仙波 三助 仙波 惣右衛門 仙波 彦三
 小林 大學 寺内 伊賀守 寺内 掃部助
 増山 兵右衛門 嶋田 嘉兵衛 戸山 右京亮
 戸山 助十郎 山村 源六郎 須賀 彦九郎
 赤羽 兄弟三人 篠田 左京亮 若林 太郎兵衛
 山井 助八 石塚 源十郎 石塚 又五郎
 後藤 新左衛門 早乙女 修理 入沼 長三郎
 入沼 五郎八 入沼 千之助 入沼 志武保知
 入沼 右京亮 小倉 古曾守 稲葉 三郎兵衛
 稲葉 九右衛門 黒川 市左衛門 松嶋 勝右衛門
 岩木 治郎右衛門 伊矢 塾又右衛門 伊矢 塾典治右衛門
 森田 彦右衛門 森田 惣兵衛 池谷 太郎右衛門
 池谷 藤三郎 黒川 勝兵衛 朽木 五郎右衛門
 黒川 重太夫 根本 左衛門 秋 塾藤左衛門

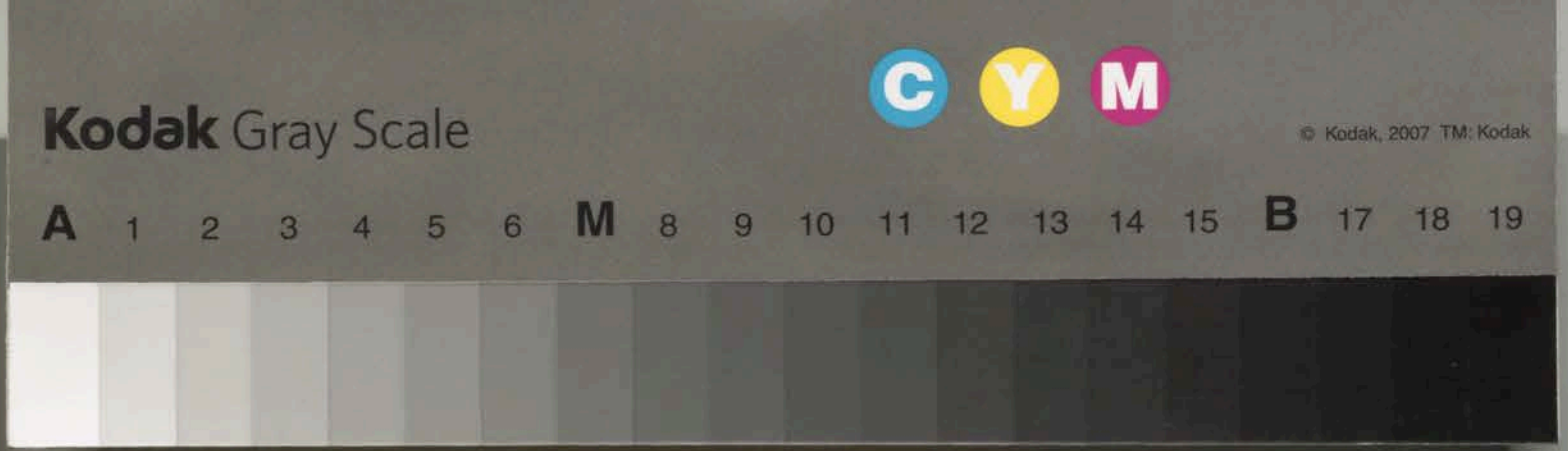
押原 推移 録上ノ 卷

五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





大塚備中 大木治郎左衛門 寺内九助
 篠崎八左衛門 奈良部與兵衛 増子民部
 山戒兵部 出井忠右衛門 相良久右衛門
 若林五郎兵衛 矢嶋藤右衛門 小立左京助
 林内藏助 栗原彦右衛門 荒川兵助
 寺内彌右衛門 加藤與之右衛門 黒川若狭
 増子助右衛門 黒川藏人 伊藤六右衛門
 早乙女源右衛門 黒川氏部 根本勘太郎
 落念宇兵衛 田嶋外記 荒川太郎右衛門
 荒川義左衛門 荒川久藏 篠原又兵衛
 荒川備後 根本左京助 大塚孫右衛門
 根本九左衛門 大関藤左衛門 伏木善治郎
 舟越雅樂助 舟越之郎右衛門 大谷義濃原
 松嶋惣右衛門 鱈主計 大谷弥左衛門

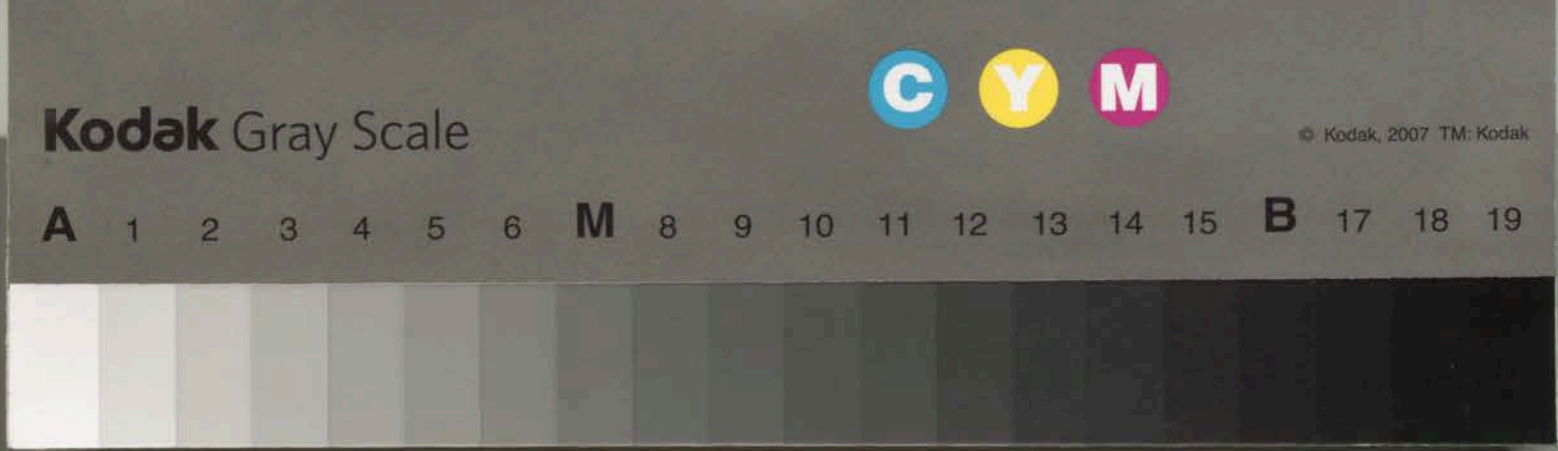
押原推移録上ノ巻

五十一

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





嶋田權三郎 嶋田之右衛門 柳田新右衛門
 柳田孫右衛門 黒川重太夫 黒川寧三郎
壬生三上表出城 三上大膳 黒川源右衛門 藤倉勘齋
藤井出城 大垣右衛門兵衛 坂橋將監 渡邊清助
 黒子勝兵衛 黒子彦作 中山七右衛門
 福西九左衛門 福田清右衛門 木嶋長四郎
 舟田四郎右衛門 阿久津長九郎 若野又右衛門
 若塾勘三郎 竹間與吉 三上吉六
 小菅出雲守 小菅治郎作 高木勘六
 高木惣太郎 渡邊辰 黒子五郎作
 圓明院 増子四郎兵衛 高木由義惠
 黒川瀬兵衛 山口四郎右衛門 山口宗巴
 鈴木河内 角田太左衛門 松嶋清兵衛
 嶋田勘解由 松嶋新右衛門 松嶋九郎左衛門

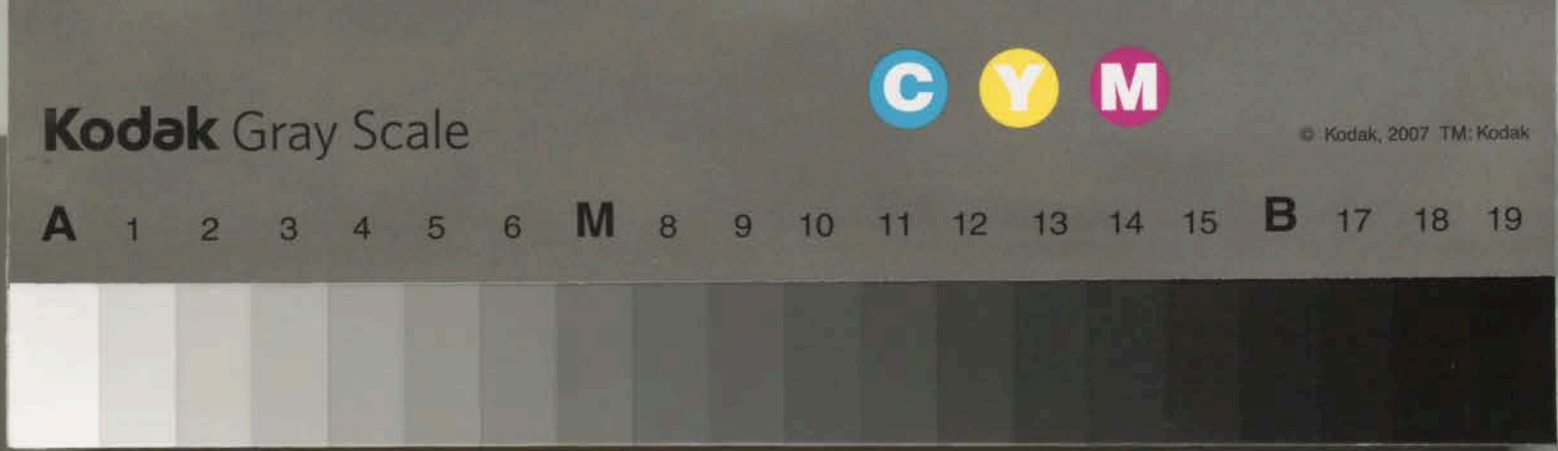
押原推移録上ノ卷

九十三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





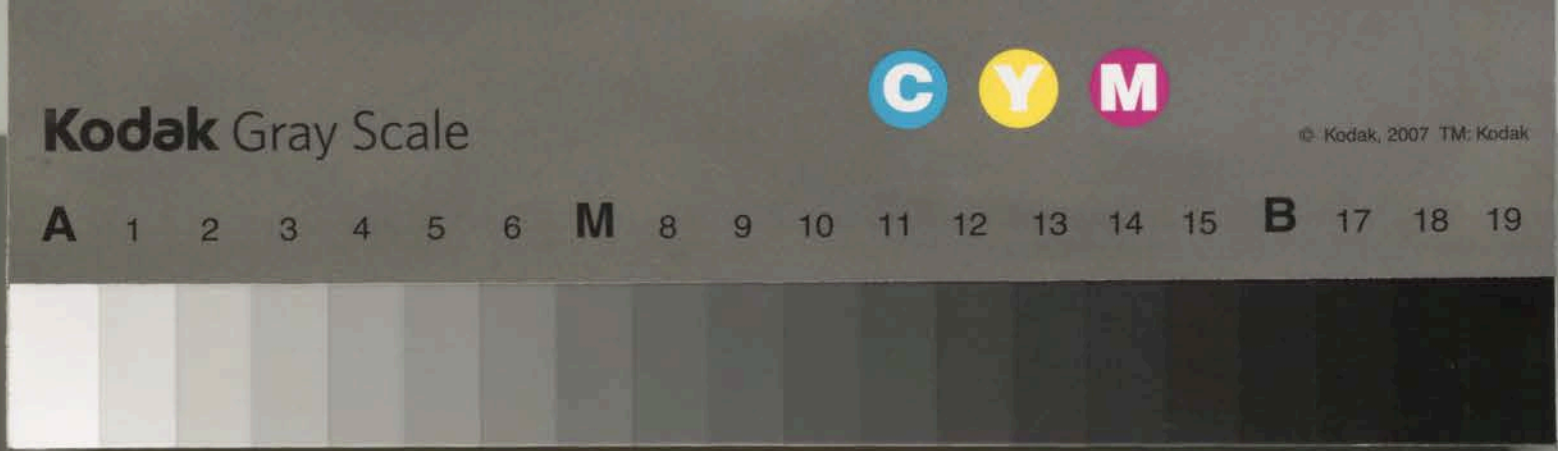
伊谷林左衛門 伊谷林與作郎 增屋義作
 島田之太夫 松嶋四郎兵衛 南間伊右衛門
 大門九兵衛 大門修理 橋本嘉左衛門
 増子庄右衛門 増子小傳治 増子伊兵衛
 高木彌左衛門 高木新太郎 福田之右衛門
 福田權六 川名子和泉 宇賀神玄番
 篠原長蔵 篠原又六 和具惠内記
 川嶋半六 伏木久兵衛 寺内長作
 寺内小右衛門 高木茂左衛門 小口玄番
鹿沼出城右近ノ孫
 小口左近 野澤玄助 野澤伊兵衛
 根木兵左衛門 小曾稱重兵衛 渡邊兵庫
 大垣縫殿頭 本馬勘解由 入澤右近
 藤倉右衛門 九州形部 黒子若狭
 毛塚右京 落合道可 原金左衛門

押原推移録上ノ卷
 五十三

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





押原推移録上、卷
五十四

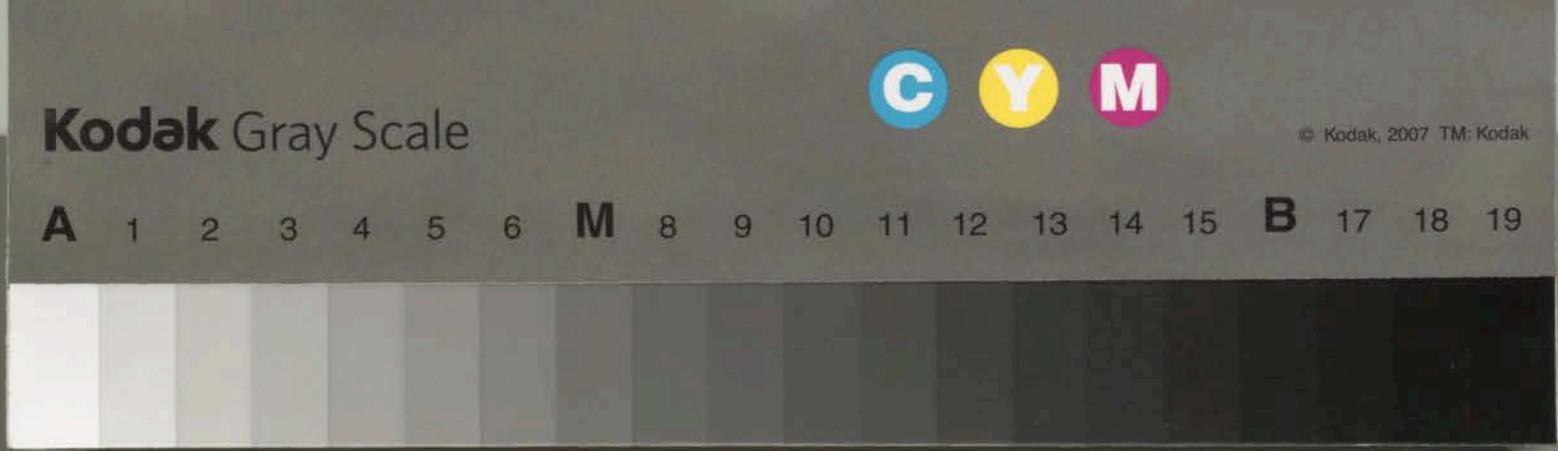
高木信濃	大垣左十郎	伏木善右衛門	奈良主水	金雷邊左衛門	若林右近	宇賀神與右衛門
福良但馬	壬生助右衛門	山井大藏	鈴木七兵衛	川田宗十郎	上田半十郎	中林勅員
酒井刀助	羽崎帶刀	渡邊右五右衛門	大塚勘十郎	鯉澤孫右衛門	大山半四郎	三上五郎右衛門

本馬太郎兵衛	三上彌右衛門	山田主膳
癸生川傳内	黒川右衛門	花塚藤十郎
午木新兵衛	磯沼孫右衛門	大門與兵衛
大嶋玄番	吉澤小右衛門	矢野長松
落合善右衛門	戸登七左衛門	小林喜兵衛
福富助太夫	落合磯右衛門	青柳右衛門
落合七右衛門	手塚太助右衛門	板橋喜兵衛

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





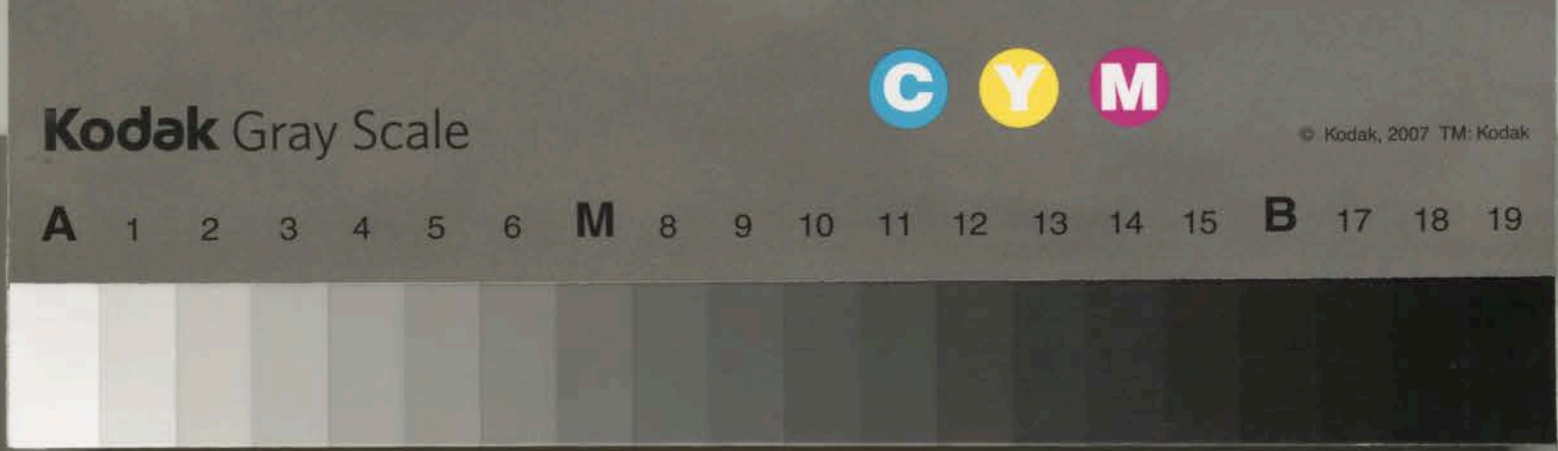
寺討勘解由 竹馬大膳 戒淨坊
 福田九右衛門 黒子孫兵衛 大塚七右衛門
 黒子彦作 市川玄番 福田新兵衛
 落合小右衛門 黒子與右衛門 竹内因幡
 小倉半右衛門 野澤左近 橋本九助
 高田新五郎 木林監物
 鳥羽山金兵衛 若林文右衛門 荒川玄番
 羽崎甚三郎 山田但馬 小笠右太右衛門
 小笠藤兵衛 川嶋治郎右衛門 大塚市右衛門
 左之藤與治右衛門 黒川五郎八 琴寄彌治右衛門
 戒淨坊 高田助右衛門 増子與左衛門
 増子七助 田賀久宗右衛門 水野市兵衛
 篠原新左衛門 篠原雅樂 篠原源右衛門
 篠原茂吉 大橋筑前守 日光真鏡坊

押原推移録上ノ卷
 五五

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





押原推移録上ノ卷

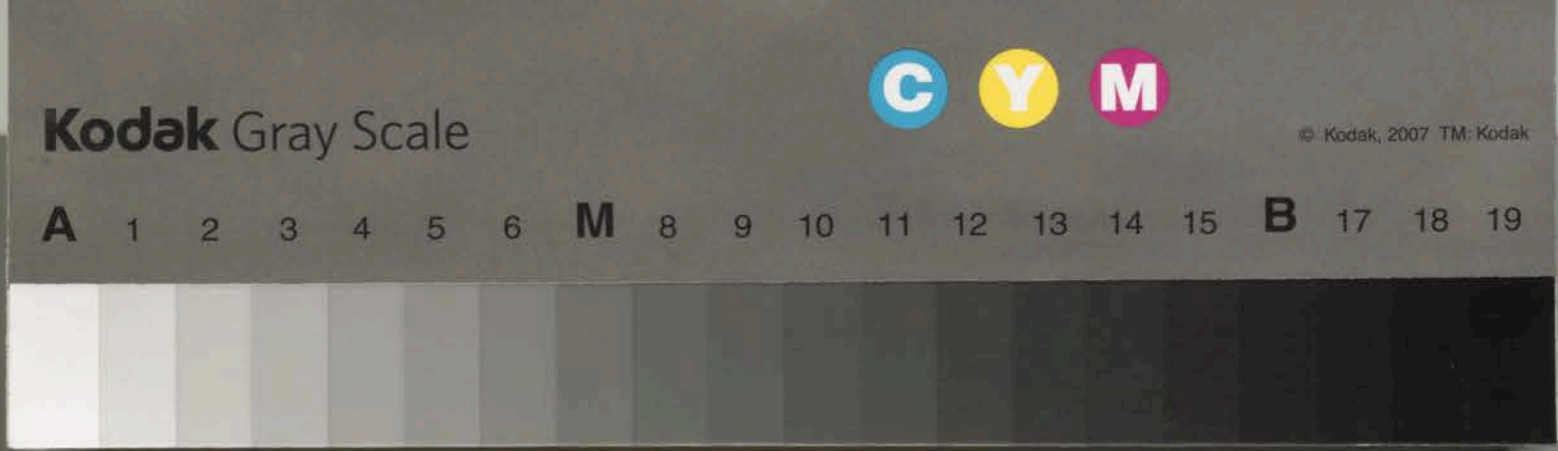
日光園入坊 知足院 曆覺院
 伊矢野長三郎 甚織坊 大傷仁左衛門
 若林茂吉 伊藤民衛門 落合清左衛門
 根本五郎右衛門 長井長作 藤加彦七郎
 長孫兵衛 黒川吉兵衛 黒川若狹守
 黒川金平 室八嶋兄弟三人 黒川云平 小野口勘九郎
 小野口百助 増子與左衛門 林彌兵衛
 落合久八 伊藤金治郎 小野口與七郎
 田嶋嘉若衛門 舟田傳吉 田中勘十郎
 田中長七 田中見喜之助 大摺小左衛門
 福嶋清左衛門 増子主馬 増子四郎左衛門
 福田惣左衛門 千態清十郎 田村内膳
 比惠多藤子 小立右京 大母貞七郎右衛門
 朽木武兵衛 朽木權右衛門 朽木七兵衛

美

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





朽木三九郎 藤倉理子 藤倉長吉
 木林監物 舟橋門彌 蓼沼左京
 蓼沼治藤十郎 蓼沼助之 蓼沼宮内
 伏屋彦右衛門 落合三左衛門 石川義濃
 戸板若狭 宇賀神大學 黒川右衛門
 市川茂右衛門 伏木善右衛門 形部角兵衛
 増子七右衛門 猪瀬喜兵衛 猪瀬彌兵衛
 教玉院 癸生川三十郎 田中三郎右衛門
 伯耆七兵衛 長六兵衛 長理兵衛
 大橋孫左衛門 朽木猪助 三人兄弟 癸生川内匠
 石川義濃 落合三左衛門 藤倉伊兵衛
 ○壬生家旧臣姓名録ハ當時京都壬生
 官勢君の所許に在り給ふ事此
 書の寫し之本書ハ一紙に領せし
 所右高小安とて平々思ふ事ある

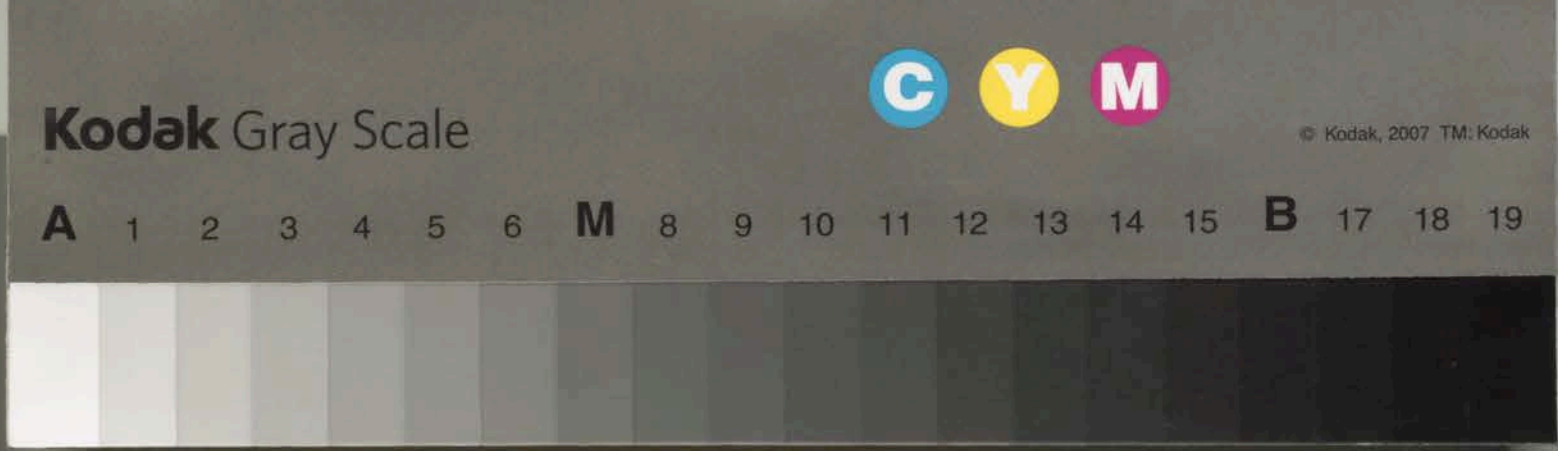
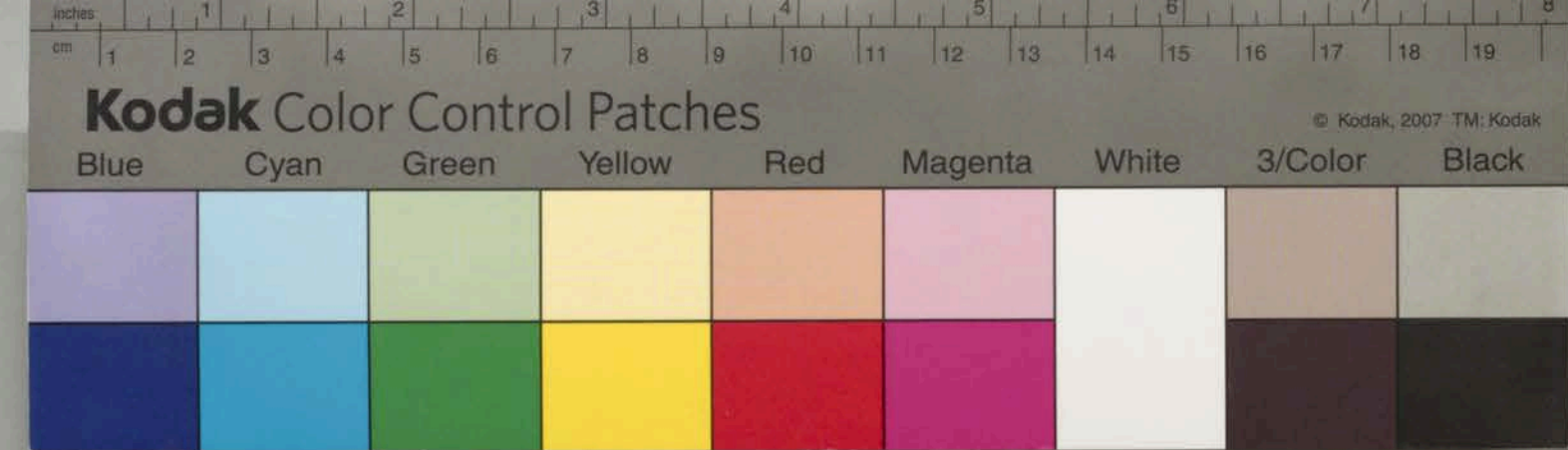
押原推極録上ノ巻

廿七

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





〇同書云四月廿八日多氣の城に寄ん
 とい相隨ふ等々八豊田和泉守信久
 黒川丹波守房朝篠田源左衛門吉久
 稻葉大和守信久會羽主計助吉宗鳩
 中將監膳吉松嶋惣右衛門朝久高野
 新左衛門勝吉枝左京亮秀吉藤田兵
 部少輔助宗トク
 鹿沼氏子孫

〇壬生物語云廿一人此面に知り倍
 學不中も黒河刑部丞後丹波と改む
 高野修理滋江継之介令羽主計之介
 等ハ秀々者トク房の字を給ハリけ
 思ハ云イ
 按子黒川。建殿助。會羽主計助に
 作ス一今宮棟札の字面を以て證と

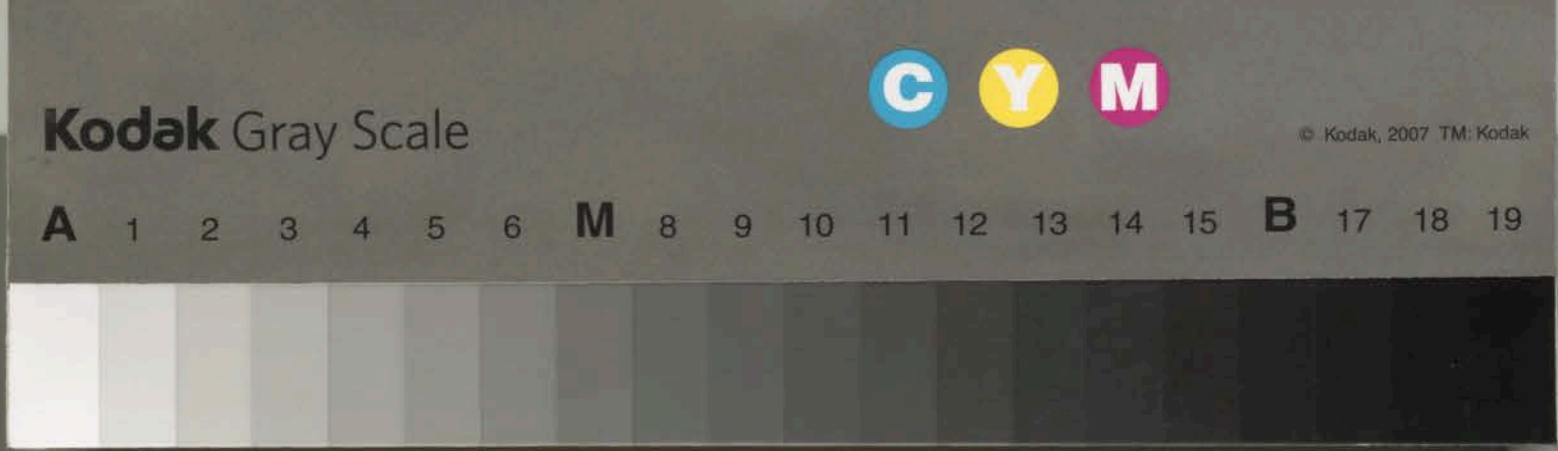
押原推移録上ノ卷

五十六

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





押原推移録上ノ巻終

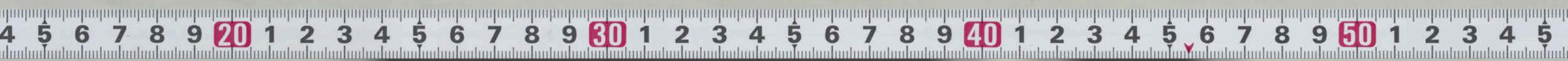
五九

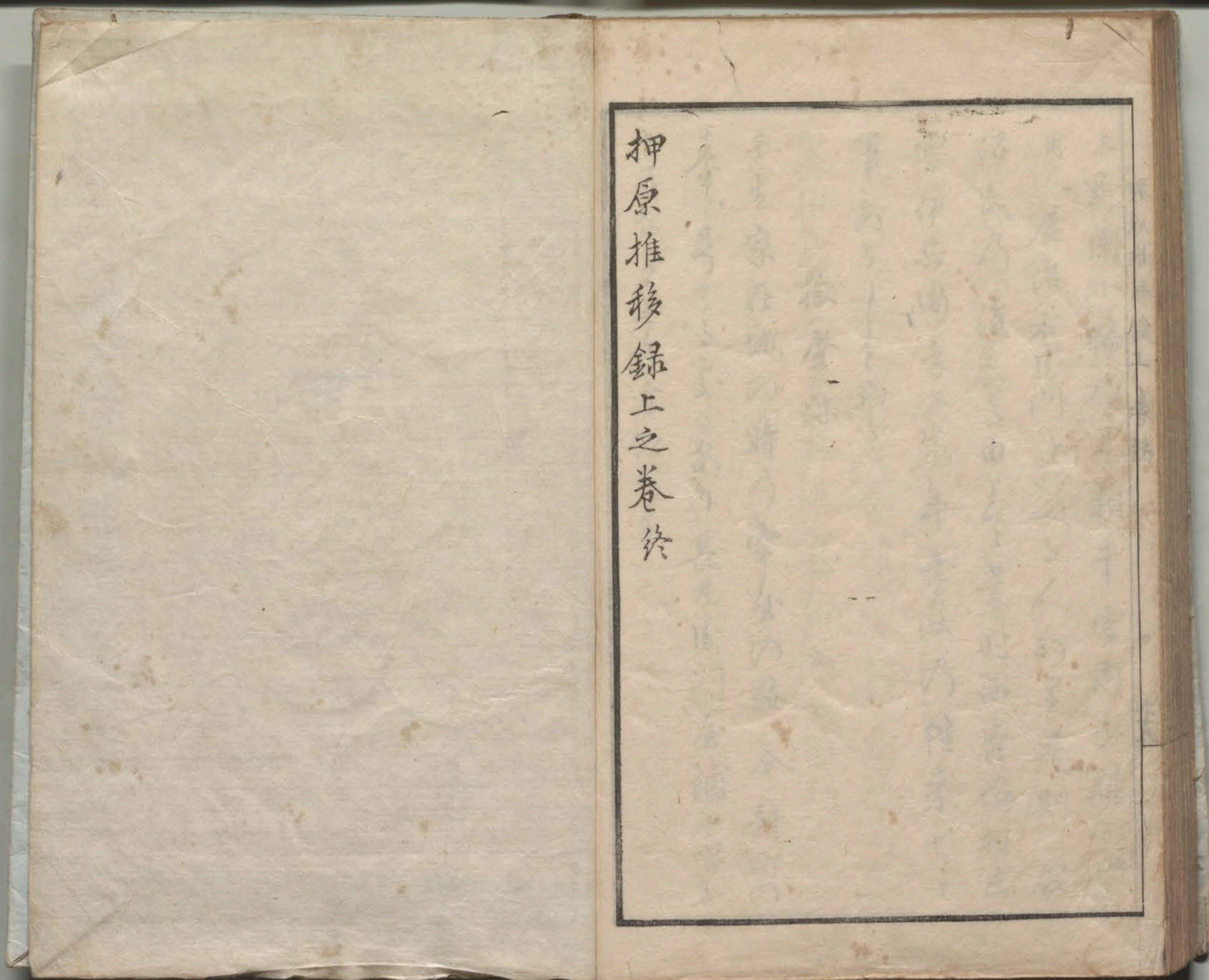
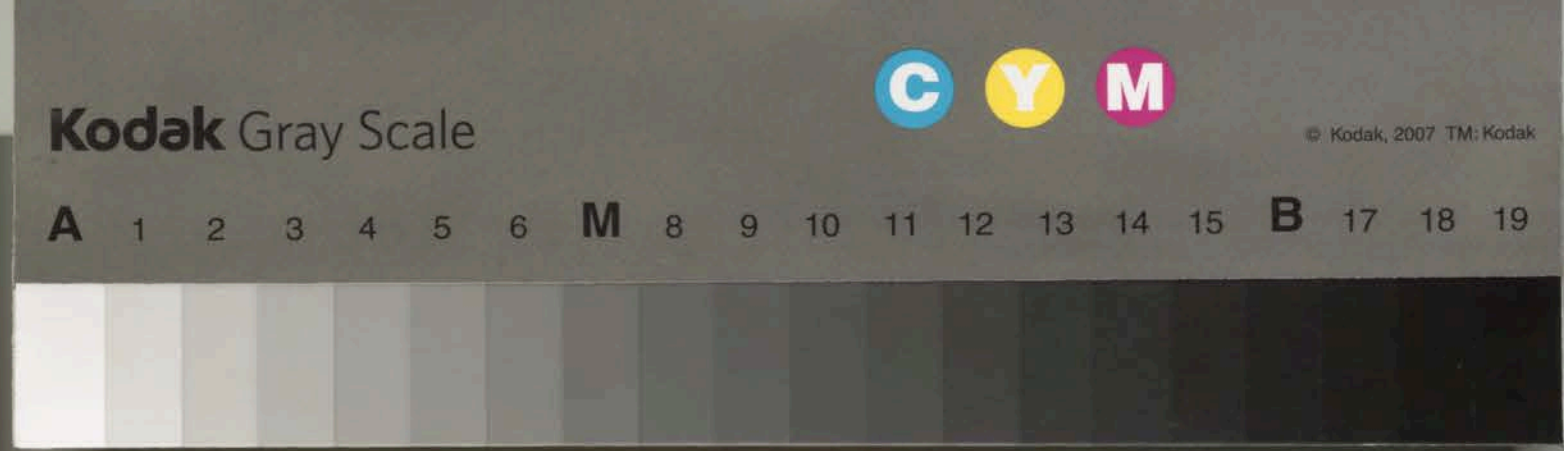
跡見録上ノ巻終

上野國小幡領主松平宮内少輔石内
用人鹿沼右衛門とくろ人あり是則鹿
沼氏乃後ある由く昔時西鹿沼村庄
官伊兵衛方先年書出乃往來せし
事ありしと持合証書あり
獄屋跡小幡藩田代公儀門前
壬生家 在城の時乃牢金の跡ハ今新町の
臺と号する處にあり長左衛門金鋪と号す
る所あり是を真地あり

142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1

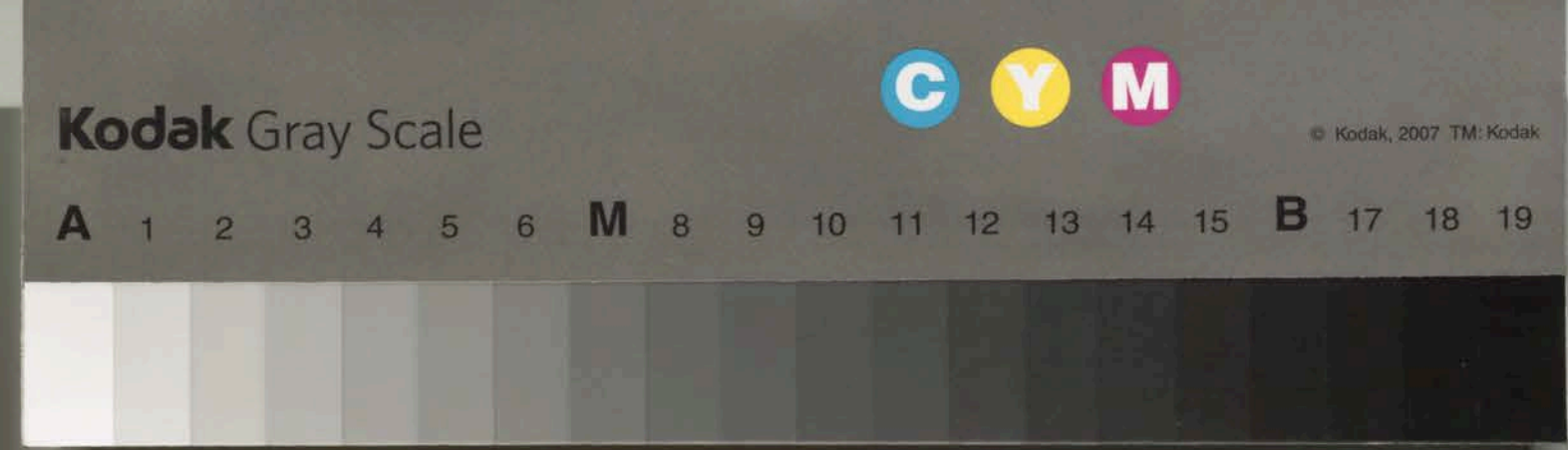




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1

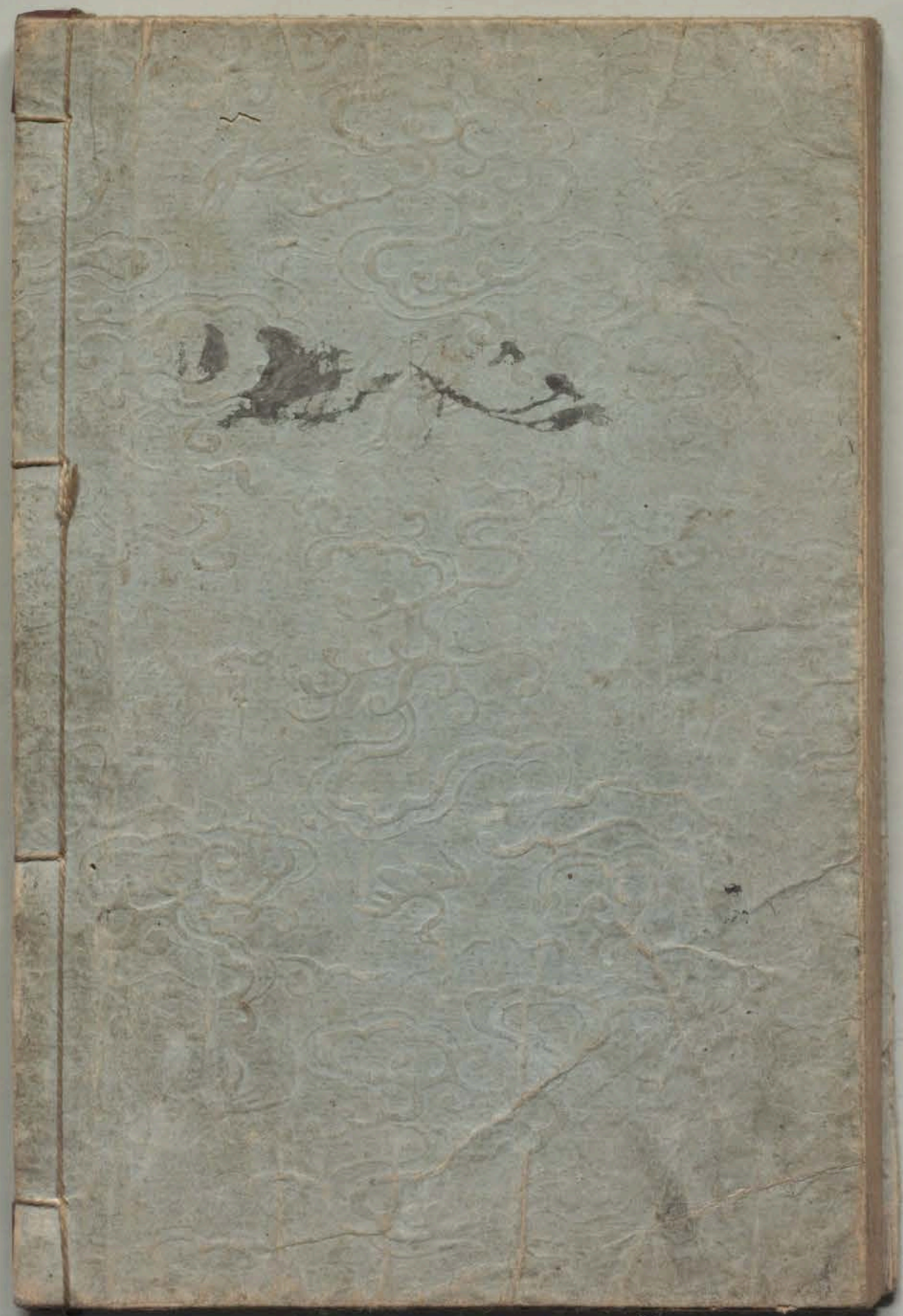
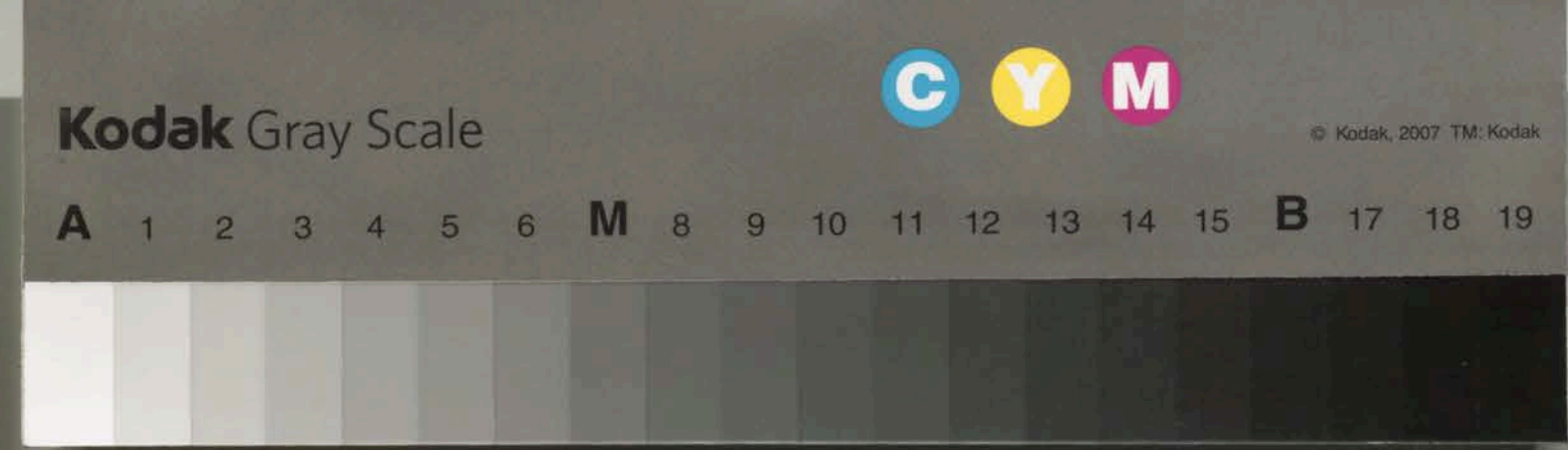
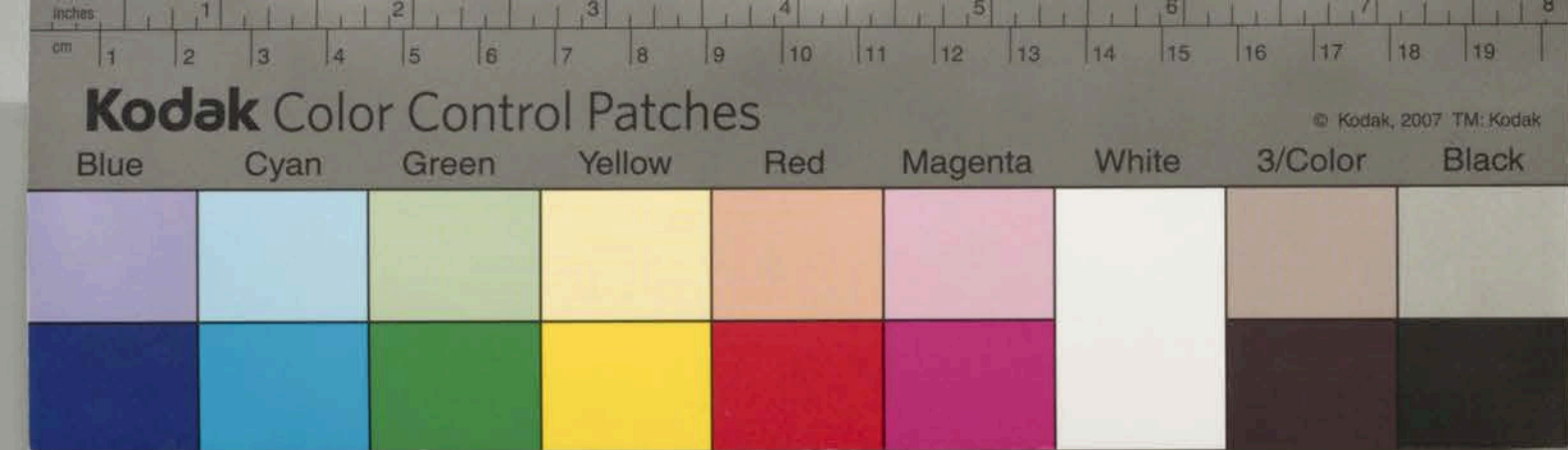




142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1





142 鹿沼地区石橋町 鈴木成雄家文書

C46-9-1

